ひろば

No.４９

（陸上競技場の紅葉した銀杏）

令和５年度　**研究紀要**

秋田県立横手城南高等学校

「新たな教師の学びの姿」

校　長　　寺　田　　潤

令和４年度から年次進行で始まった高等学校新学習指導要領が、いよいよ来年度全面実施となる。新学習指導要領では、これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を生かし、子供たちが未来社を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指している。

そのため、全ての教科等において「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱で再整理し、資質・能力をバランスよく育成することとしている。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進や、各校におけるカリキュラム・マネジメントの確立により組織的・計画的に教育活動の質を向上させること、資質・能力の３つの柱に対応した３つの観点に基づき学習評価を改善することを求めている。

そのような中、NITS「（独）教職員支援機構」が令和４年７月に公表した「NITS 戦略　～新たな学びへ　～」には、「子供の学び」と「教師の学び（研修）」は相似形であるべきことが、端的に示されている。

更に、同年 12 月の中教審答申では「新たな教師の学びの姿」として、「個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じた『主体的・対話的で深い学び』」が示されるなど、子供の学習観の転換と相似形を描くように、教師の研修もまた変容を遂げていかねばならいないことが強調されている。我々教師自身も高度な専門職として、たゆみなく新たな知識・技能の修得に努める必要が高まっているのだ。

今年度から、教員免許更新制に代わり、新たに各教職員の自主的・主体的な研修受講と、管理職の指導助言（対話に基づく受講奨励）により、教職員の資質能力の向上を図る仕組みがスタートした。教職員一人一人が、それぞれのキャリアステージに応じて求められている資質能力を確認した上で、自己評価を行い、自身の専門性を高めたり、弱みを克服したりする研修に主体的に取り組むこととなった。

また、本校では今年度の授業実践重点事項を「主体的に学び、自分の考えを表現できる生徒の育成」とし、その手立てとして、①生徒に見通しをもたせるための「目標と流れの提示」、②生徒に深く思考させるための「学習形態や発問の工夫」、③ＩＣＴ機器等を活用した「生徒が伝える場面づくり」の３つの具体的な取組を掲げ、授業改善に取り組んだ。

本紀要は、これらを踏まえ、今年度校内外で取り組んだ各種研修や授業実践の成果をまとめたものである。この貴重な財産を全教職員で共有するとともに、変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ自律的に学ぶ、教師の主体的・継続的な学びへとつながることを期待したい。

目　次

巻頭言　「新たな教師の学びの姿」　校長　寺田　潤

(ページ)

校内教科研修会

国　語　「現代の国語」　小武海　春　佳　1

地歴公民　「世界史探究」　高　橋　　淳　5

保健体育　「保　健」　仙　道　貴　史　9

年次研修

令和５年度実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）を終えて

今　入　健志郎　13

令和５年度秋田県公立高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

佐々木　瑞　穂　15

その他

令和５年度第２回生活・学習・進路アンケートについて（報告）　研 修 部　21

編集後記　36

学習指導案　論理国語

日　時　令和５年１０月３０日（月）６校時
授業者　小武海　春佳
場　所　横手城南高校２年Ｂ組教室

１　単元名　本文を踏まえて自分の考えをもち，相手を納得させる文章を書くことができる。

２　単元の目標

（１）文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。（知識及び技能（１）エ）

（２）文章の構成や展開，表現の仕方などについて，自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすることができる。（思考力，判断力，表現力等　Ａ書くこと（１）カ）

（３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする。（学びに向かう姿勢，人間性等）

３　評価規準

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	主体的に学習に取り組む態度
文章の種類に基づく効果的な段落の構成や論の形式など，文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	文章の構成や展開，表現の仕方などについて，自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して，文章全体を整えたり，読み手からの助言などを踏まえて，自分の文章の特徴や課題を捉え直したりすることができる。	文章の構成や展開，表現の仕方などについて，自分の主張が的確に伝わるように書くことを行うことに向けて粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとしている。

４　単元設定の理由

（１）生徒の実態　男子１５名　女子２５名　計４０名

発言が活発で，自分の意見を臆せず話したり，書いたりすることができる生徒たちが多い。一方で，自分の考えをじっくりと熟考した経験があまりなく，考えと感想を混同したり，文章構成を意識して書いたりすることが苦手であるため，今の長所を活かしつつ，自分の考えをもたせた上で，相手を意識した文章を書く力を養いたい。

（２）本教材について

福岡伸一の『なぜ多様性が必要か』である。本教材は，重要視されている生物多様性について，生物多様性とはそもそも何か，なぜ重要なのかを，「動的平衡」の視点から詳しく見ていき，現状の問題について解決していこうとする文章である。本教材内に登場する「動的平衡」や「ニッチ」などの概念はやや難解なものである。しかし，筆者の使用する表現や文章構成等に工夫が見られ，内容が分かりやすく読めるようになっており，かつ説得力のある文章となっている。相手を意識して，納得させるための工夫を学ぶための教材として適当だと思われる。

（３）（１）（２）を受けた，本単元の指導について

まず，本文の内容を理解した上で，筆者が文章の構成や表現等で工夫した点と改善すべき点を考える。その上で，筆者の工夫点を参考にしながら，相手に納得してもらえるように自分の考えを書く。その後，他者に読んでもらい，助言等を踏まえて自分の考えを書き直す等の時間を設ける。

5　全体計画（総時数３時間）と評価規準（方法）

１時間目　　・・本文を読み，内容を理解する。　【知識・技能（観察，ワークシート）】

２時間目　　・・筆者の工夫点と改善点について考え，自分の考えを書く。

【思考・判断・表現（観察，ワークシート，発表）】

３時間目（本時）・・他者から助言をもらい，吟味した上で書き直す。

【思考・判断・表現（観察，ワークシート】

【主体的に学習に取り組む態度（振り返りシート）】

6　本時の計画（本時　３／３時間）

（１）本時の目標

読み手からの助言などを踏まえて，根拠をもった文章を書き，相手を納得させる書き方を身につける。

（２）学習過程

過程	生徒の学習活動	学 習 形態	教師の支援	評価規準 （評価の方法）
導入 （５分）	・筆者の工夫点と改善点について確認する。 ・学習課題を確認する。	全体	・前回の授業の内容を確認できるよう，ワークシート等を確認するよう伝える。	
学習課題：相手に納得してもらえる文章を書こう。				
展開 （３８分）	・自分の書いた考えを見直す。	個	・クロームブックで書いた文を見直すよう伝える。	
	・班で書いたものを読み，相手の文章を評価し，助言をする。	班	・自分の工夫点を班員に伝えた上で，他者の評価や助言をするよう伝え得る。	・【思考・判断・表現】他者の助言を踏まえて書き直し，相手を納得させる文章を書くことができたか。（観察，ワークシート，発表）
	・助言を踏まえ，自分の考えを書き直す。	個	・最初に書いた文を残して，書き直すよう伝える。	
	・班で一番良いものを選定し，提出する。	班		・【主体的に学習に取り組む態度】粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整できたか。（振り返り）
	・全員で提出されたものを共有する。	全体	・工夫した点と直した点や助言の内容を発表してもらう。	
まとめ （７分）	・今までのことを踏まえ，自分の考えを書き直す。 終わった人は振り返りをする。	個		

令和５年度　公開授業研究会　国語科研究協議会

授業者　　小武海　春　佳
司　会　　清　水　妙　子
記　録　　小　松　拓　史
指導者　物部長幸 指導主事

１　授業者から感想・課題等

参観ありがとうございました。２Ｂ生徒よく頑張った。うまくいかなかったのは、良いものを全体で共有する時間がとれなかったこと。ご助言いただければ。

２　授業参観者から感想・質問・意見等

・普段授業に行かないクラス。楽しく見ることができた。指示なくとも学習できていた。
・chromebook の利用。良いものを選び出して今風。授業始まってから何が始まったかが分からなかった。学習過程に思考課題を書けば見方も変わったと思う。
・時間の指示があり、生徒もやることが分かりやすかったと思う。１時間目で内容理解とは思えないくらい理解できていた。生徒の発表に対して、こうすれば良いという意見を生徒で共有してもよかったと思う。
・１時間で内容理解し文章を書くところまでもっていく手腕に驚き。相手を納得させる文章を書くための流れをしっかり作れていた。赤字や青字で訂正を明確に分けていた生徒もいて素晴らしかった。Chromebook ですぐに共有できていた。生徒が一生懸命であったが、共有する場面がなかった。生徒の変容を確認する場があればよかった。筆者の考えと結び付けられればよかった。「レベルが上がった」と言った理由を生徒に伝えられれば、生徒も達成感を得られるのではないかと感じた。字数制限もあれば、時間も計れたのではないかと思った。
・国語は難しいと思った。話すきっかけや代表者を誰にするかなど、指示が少なくても生徒が動けていたのが印象的。生徒が提出したものをすぐ共有できた。疑問は「相手に納得できる文章が書けたか」をどう評価するか。振り返りで「こういうことを書けば伝わる」ということが身についたかどうかをどう確認するかを知りたい。
・別の単元では、観点を設けて生徒同士で評価したことがある。今回は時間の関係上できなかったが、それができればよかった。
・書く授業が苦手で、読むことを重視しがち。しかし生徒が抵抗なく書くことができていたのが普段の指導の表れだと感じた。本文から発展して書くものであったので、本文に戻る部分があればより良いのではと感じた。何に主眼を置いて評価するのかがぶれている生徒もいた（内容構成、文章の組み立て…）。授業の中で触れてもよかった。授業に生徒が読みやすい文章を目指しているような感じもあった。難しい文章を使わないのが良い、ではない。２時間目ではっきりさせておくと良い。
・重点事項に対する３つの手立てがしっかりと盛り込まれていた授業だった。「納得させる文章」には何が必要か。考えると深い思考につながるのでは。改善点に突っ込んだ勇気が素晴らしい。
・質問。工夫している点が「文章構成」「展開」などだと思う。「内容もよくなっていた」のは具

体的にどのような点か。
・読んで自分の意見を書くことはやってきたが、相手を意識して書くことをやらせたかった。高校生に身近な具体例を入れて書いている点は成長したところだと感じた。
・物部先生へ質問。意見共有の効率的やり方は？「納得させる文章」とは？
・物部指導主事：共有の仕方は先生方の方が詳しいと思う。実践例があれば。
・写真の共有はあった。数式の打ち込みが難しい。
・ＩＣＴと切り離して言葉を「使う」こと、声に出すことが良い。
・フォームの利用。

３　指導主事助言

共有の方法について。先生方で情報共有がよい。生徒の実情にあった形で。
共有の目的によって変わる。スプレッドシートであれば印刷すると良いが、長くなると読まなくなる。実物投影で共有も多い。手元に残った方がよいもの、視覚的に共有した方がよいものなど、目的によって組み合わせを。

「目標をどう設定するか」。目標を「納得」にしているが「納得」とはどういうことかをはっきりさせてから授業を作ることがどの単元でも求められるのではないか。授業改善のヒントになる。何ができるようになっていればよいか、は授業をするうえで大切なポイント。書き直しのポイントも変わったのでは。ゴール設定の仕方が大切。１時間後、１単元後にどうなっているか。特に今までよりも「焦点化」すると良い。手立てが広がる。「これ」ができていれば何をしてもよい。

良かった点：「書くこと」は扱いにくい。「書くこと」をやるときにＩＣＴを使うと生徒は書くようになる。ＩＣＴでないとできないところが多かった。「書き直し」は二重線で消すとよかった。発表を生徒が声に出して読んでほしかった（見せ方、パフォーマンス）。場の与え方。どんなワード、どんな振り返りができていればＡだ、Ｂだというのを教師側が持っていればよい。

地歴公民科（世界史探究）学習指導案

日　　時：令和５年１０月３０日（月）６校時
対　　象：第２学年Ａ組
指　導　者：高橋　　淳
使用教科書：詳説世界史探究（山川出版社）

１　単　元　名　　「Ｃ　諸地域の交流・再編 」
　　１　イスラーム教の諸地域への伝播

２　単元の目標　　（１）中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの諸地域でどのようにイスラーム化が進んだのかを理解している。
（２）イスラーム教が諸地域に伝播・拡大する際にトルコ人やイスラーム商人の果たした役割を資料から読み取り、多面的・多角的に考察し表現している。
（３）イスラーム教の諸地域への伝播について、興味・関心をもったことを探究してみたいことを追究する態度を養う。

３　単元と生徒
（１）単　元　観　　中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカにおけるイスラーム化に果たしたイスラーム商人の役割を、資料や情報から読み取って理解する。

（２）生徒の実態　　合計１０名（男子５名・女子５名）
問いに対しては活発な意見を述べることができるが、地理的要素を含む課題や時事的な問題に対しては苦手意識をもつ生徒も見られる。様々な事象を多角的に考察できる力を涵養し、個人の考えを全体で共有することで学びを深めさせたい。

４　指導と評価の計画（２時間）
第６章イスラーム教の伝播と西アジアの動向　　（４時間）
１　イスラーム教の諸地域への伝播　１／２時間（本時）
２　西アジア世界の動向　　（２時間）

《評価規準》

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播を基に海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを理解している。	諸資料を比較したり関連付けたりしながら、諸地域へのイスラームの拡大の要因を多角的・多面的に考察し、表現している。	諸地域の交流・再編について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

5　本時の計画

（1）ねらい　アッバース朝衰退後の西アジアの諸地域で、イスラーム教の伝播・拡大に果たしたイスラーム商人の役割を多角的に考察する。

（2）展開

過程	生徒の学習活動	評価の観点			評価規準
		知	思	態	
導入(5)	・ウマイヤ朝やアッバース朝のもとでイスラーム教が拡大する過程をワークシートで確認するよう伝える。				・ワークシートから情報を読み取ってまとめている。
展開(40)	学習課題：「イスラーム商人の交易活動が果たした役割は何だろうか。」				
	・タラス河畔の戦いの影響について考察する。		●		・８世紀のアジア・ヨーロッパ世界を地図上で読み取っている。
	・アッバース朝の衰退で政治的統一性が失われ、イスラーム王朝が、中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカに誕生することを電子黒板で確認する。			●	
	・資料から季節風貿易が古代から行われていたことを読み取る。	●			
	・ジャンク船やダウ船でどのような交易活動が行われていたのか、諸資料を活用して確認する。	●			・経済・文化の交流を通じてムスリムの連携が維持されイスラーム教が広がったことを理解している。
まとめ(5)	・学習活動を経てイスラーム教がヒト・モノの交流を促進したことを読み取り、ワークシートに記入する。				

令和５年度　校内授業研究協議会（地歴公民科）

日　時　令和５年１０月３０日（火）１５：２５～１６：１０
助言者　鈴木亮高校教育課指導主事
授業者　高橋　淳

１．授業者より

従来世界史Ｂ科目は４単位であったところ、世界史探究は２年次は２単位で実施している。そのため、行事等の影響で継続的な学習が困難な状況である。

今日は既習事項の復習に時間がかかり、計画通りに進めることができなかった。最も力を入れたかった東南アジアに触れられず時間切れになってしまった。ICT を活用するなどしていかに効率よく効果的に授業を進めるかに課題を抱えている。

２．参観者より

・身近な話題や例と関連付けて説明されていて、生徒の興味関心が引き出されていて、自然に知識定着につながっていた。興味を持って生徒が聞いているからこそ引き出せた答えがあったように感じた。
・時事的な内容に生徒たち自身がもっていけるような仕掛けがあると、より高まっていったのではないか。
・生徒との信頼関係が構築されている授業であった。全体的に対話をしながら授業が進み、対話を通じて自然に知識を得ていく授業であった。
・机列が少人数ならではの工夫がなされていて、学習意欲の向上につながっていると感じた。
・授業者の力強い味のある語り口調が生徒の知的好奇心をさらに引き出していた。
・少人数ながら生徒たちは活発に意見を交換していて、間違いを恐れず発言していた。
・後半、コールアンドレスポンスが少なくなってしまったところが残念だった。
・電子黒板に映し出された資料が見やすく確認しやすかった。
・電子黒板で情報を共有することは生徒にとっても安心感があると思う。
・関連する歴史的建造物などは、瞬時にイメージしたり理解したりするのは難しい。chromebook を活用して映像に触れることでイメージしやすくなり効果的になると思う。
・生徒が発信したものを電子黒板に提示する方法もよいのではないか。
・プリントが見やすく、確認しやすかった。
・ワークシートの使い方について、ノート代わりなのか、知識整理用なのか、分かりづらいところがありもう少し工夫があったら良かった。

・丁寧に復習することで基礎的知識の定着を図ろうとしていた。その基礎があってこそ、自信をもって発表（意見交換）ができてくると思うので必要な時間であると思う。毎時間は難しくても適宜 chromebook などを活用して行うことで効果的である。

・調べて答える場面では、もう少し生徒時間を与えてじっくり調べたり、その内容を分析したりする時間をしっかり確保すると良かったと思う。

３．指導助言

・普段から信頼関係が構築されており、生徒の興味関心を引き出していることがうかがえた。
・いきなり情報量が膨大になり難しくなる単元である。生徒にとっても大変な分野であるが、その分面白みもある分野である。
・アプローチの仕方や ICT の効果的な活用など工夫して組み立てていくことで今後も授業が盛り上がっていくだろうと予想された。
・問いを磨いていただきたい。身に付けさせたい力を教師自身が明確にもつこと。内容のまとまりごとに構成をしっかり組み立てて欲しい。
・中学校での学習内容を確認して欲しい。できれば中学校の授業を参観するとよい。
　中学校での学びの内容を把握しているだけでも生徒の動かし方が変わってくるのではないか。横手市での取り組みなどがあれば是非参観して欲しい。
・本校生徒は授業中静かだ。理由は複数あると思うが、問いや投げかけがあるだけで授業全体が活性化するので、言葉かけ、やり方を工夫して引き出していくかことが大事になってくる。chromebook を使いグループ形態でなど様々な形で表現させることで、学力伸長の手助けをして欲しい。
・それぞれの専門教科での実践につなげ、力を合わせて授業改善を進めて欲しい。

令和５年度 保健体育科（保健）学習指導案

仙道　貴史

対　象：秋田県立横手城南高等学校　２年Ｄ組３６名
日　時：令和５年１０月３０日（月）６校時
場　所：２年Ｄ組教室
授業者：仙道貴史

１　単元名　　４単元　健康を支える環境づくり「ごみの処理と上下水道の整備について」
大修館書店

２　単元の目標
（１）ごみの出にくい製造法やリサイクルしやすい製品の開発など、知的財産の視点で捉え、ごみの処理には新技術の導入など工夫・改善が必要なことを理解させる。
（２）健康で快適な生活を過ごすための環境衛生活動に関して、ごみ処理の過程を説明できるようになる。
（３）自らできること（分別・リサイクル等）を考え、日常生活において実践できる態度を養う。

３　生徒と単元
（単元観）自宅周辺のごみ出しのルール等をしっかりと認識できていないことが考えられ、そのことがごみの増大、分別の難しさに繋がっていることを理解させる。
（生徒観）公共の場所においてのごみの処理やマナー等を身につけていない生徒も少なくなく、学校での毎日清掃についても今一度振り返り、改善点がないか考えさせる。
（指導観）ごみの処理については国や各自治体でも問題になっている点を理解させ、まずは個人でできることから取り組むことの大切さを理解させ、ごみの排出をおさえるためには、どんなアイデアがあるかを考えさせる。

４　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ごみ出しのルール等について、しっかりと認識できていないと考えられ、そのことがゴミの増大、分別の難しさに繋がっていることを理解させる。	健康で快適な生活を過ごすための環境衛生活動に関して、ごみ処理の過程をよく考えようとしている。	ごみの減少に向け個人でできること、また、どんなアイデアがあるかを考えようとしている。

５　指導と評価の計画（２時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 (本時)	○ごみの処理について ・ごみの処理の現状やその課題について説明できる。	○ごみの排出量をおさえるため、様々な努力がされていることを理解している。	○ごみの排出量をおさえる方法について自分の意見として発表できている。	○ごみの排出量をおさえる方法について自分の意見として発表できている。
1	○上下水道の整備について ・上下水道の仕組みと健康にかかわる課題を説明できる。	○上水道、下水道の仕組みについて理解している。	○水源となる河川、湖沼、地下水が汚染されることの景況について考えることができる。	○水の大切さを理解し、積極的に日常生活での水の利用に注意喚起ができる。

6　本時の計画
（１）　本時の目標　ゴミの処理の現状や課題について説明できる。
（２）　学習課程

段階（分）	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入（５分）	○学習課題を確認する。 ○１日の自分の行動を振り返り、多くのごみを出していることに気付く。	○ごみの処理法について、焼却、埋め立て、堆肥化、飼料化、リサイクル等があることを説明する。	○自分の生活パターンを理解している。
展開（40分）	○ごみの排出量をおさえる方法について各班で調べる。 （消費者・製造者・その他） ○調べた内容を発表し、他班の発表を聞く。 ○ごみの排出量をおさえる方法について全体で共有する。 ○自分の地域のごみ収集についてのルールを調べ、全体で共有する。	○ごみ排出量をおさえる具体的な方法について各班で調べ、結果を発表させる。 （消費者） ・無駄な買い物をしない ・繰り返し使用できる製品を選ぶ ・製品を長く使用する （製造者） ・ごみの出にくい製造法の開発 ・リサイクルしやすい製品の開発 （その他） ・ごみの分別収集 ・ごみの資源化のための社会システムの整備 ○ごみの排出量をおさえる具体的な事例を紹介する。 ○調べ学習を行い、自分の住んでいる地域のごみ収集ルールを調べ、その後、各班で情報交換させる。 ○情報交換後、各班の共通点や新しい取り組み等を板書する。	○各班の発表を聞こうとしている。（思） ○ごみの排出量をおさえる方法について自分の意見として発表できている。（思）（主） ○ごみの排出量をおさえる方法を理解している。（知） ○　ごみ収集についてのルールを確認できている。
整理（５分）	○捨てればごみ、分ければ資源の意味を理解する。	○新技術の導入など、工夫・改善されている内容を整理する。 ○次回の予告をする。	○本時の内容を理解している。

令和５年度　校内授業研究協議会（保健体育科）

日　時　令和５年１０月３０日（火）１５：２５～１６：１０
助言者　山﨑幸介　保健体育課主任指導主事
授業者　仙道貴史

１　授業者から

ごみの処理の現状について、日常生活でどのように処理しているか、またその具体的な処理方法、そして循環型社会の実現を目指すためにはどのような取り組みが必要か等をグループワークを通してもっと身近に感じてもらえるように、いろいろな意見、取り組み等を中心に取り入れ授業を行った。

生徒の身近な問題のひとつとして、自分の住んでいる地域のごみの分別について調べ学習をおこない、グループで話し合いをしながら、他の地域とはどんな違いかあるか等にも気付くことができたようである。グループ内で積極的なやりとりをしている場面が多く見られた。

生徒に視覚から伝わるような現物を用意すれば更に印象に残ったのではないかと思う。

今回の授業からルールに従いごみの分別をおこない、捨てる前に更に使い道がないかどうかを自ら考える事ができるきっかけになってもらいたい。

２　参観者から（意見・感想）

①生徒と普段からコミュニケーションがとれている様子が見て取れた。

②本時の目標が「～説明できる」という表記のため評価の仕方として、生徒がどのように説明できるようになっているか最後に確認できたりフォームなどを利用して説明させたりする時間が欲しかったと思う。

③授業の課題をイメージさせるためにイラストや写真等を使うと今の生徒は学習意欲の向上が図られるのではないか。以上の意見・感想をいただいた。

３　指導主事から

①和やかな雰囲気で普段から生徒と関わりをもって授業しているのが伝わった。

②グループ学習を行っていて生徒同士の会話も活発だった。

③より生徒自身で考えるように生徒たちに任せる時間を取っても良かったのでないか。

→生徒たちに任せることによって先生自身が生徒を観察する時間が増え、評価がしやすくなる。

④生徒同士の意見交換もネットワーク上で行うことも考えていきたい。直接発表することが苦手な生徒もジャムボード等を使うと積極的に自分の意見を出すことが多々ある。ぜひ、Chromebook を積極的に活用してもらって生徒ともに学んでいってもらいたい。

⑤教科等横断的な視点も持ち、他教科の先生方と似た内容を照らし合わせて同時期に授業が行えるようにカリキュラムを組むことも考えていくと生徒のより深い理解を生むことがある。

多くのご意見、ご感想をいただき、これからの授業のヒントを見つけることができた。授業改善に積極的につなげたい。

令和５年度実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）を終えて

地歴公民科　今入　健志郎

標題の講座に参加したので、下記のとおり報告する。

・実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）Ⅰ

【日時】令和５年６月２３日（金）　１０時００分　～　１６時１５分

【場所】秋田県総合教育センター

【出席者】高等学校の教諭として採用されて８年目で、今年度高等学校に所属する教諭
過年度の該当者で未受講者

【日程の概要】１０：００～１０：１５　＜開講行事・オリエンテーション＞挨拶
１０：１５～１１：５５　＜講義・演習＞不登校の未然防止と対応
１２：５５～１３：０５　＜説明＞社会に開かれた教育課程の実現に向けて
１３：１０～１４：１０　＜講義・演習＞学校組織の一員として
－自己理解に基づく目標設定－
１４：２０～１６：０５　＜講義・演習＞カリキュラム・マネジメント
１６：０５～１６：１５　＜研修の振り返り＞

【感想】

午前は「不登校の未然防止と対応」の講義・演習に参加した。改定された「生徒指導提要」を基に、児童生徒の段階に会わせた不登校の防止・対応の在り方について、学ぶことができた。日頃の業務においては、目の前の生徒について考えたり対応したりすることはあっても、データや理論をもとに情報を整理・分析し、成果を検証することは十分にできていなかったので、これまでの自分が進めてきた指導・支援について振り返るよい機会となった。

午後の初めは、自己理解に基づく目標設定について講義を受け、演習を行った。毎年の人事評価シート作成の際に自己の目標やそれを達成するための手立て、自己評価を記入することはあるが、そのほかの場面で自身の資質・能力を分析し向上策を練ることはあまりできていなかったので、よい刺激となった。

後半はカリキュラム・マネジメントに関する講義・演習に参加した。新学習指導要領施行に伴い、「カリキュラム・マネジメント」という用語はよく耳にするようになったが、その意味や必要性を捉え直すことができた。日々の業務においては校内外を取り巻く教育資源の実態を把握し、それを踏まえたＰＤＣＡサイクルを回すようなことはできていないが、カリキュラム・マネジメントの視点から教育活動について考え、できることから少しずつ工夫・改善を重ねていくことが必要だと感じた。

・実践的指導力向上研修講座（高等学校８年目）Ⅱ

【日時】令和５年８月８日（火）　１０時００分　～　１６時１５分

【場所】秋田県総合教育センター

【出席者】高等学校の教諭として採用されて８年目で、今年度高等学校に所属する教諭
過年度の該当者で未受講者

【日程の概要】１０：００～１０：０５　＜オリエンテーション＞日程説明等
１０：０５～１２：１０　＜協議・演習＞カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善
１３：１０～１５：２０　＜協議・演習＞カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善
１５：２５～１６：０５　＜協議・演習＞カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善
１６：０５～１６：１５　＜研修の振り返り＞

【感想】

前回（Ⅰ期）の研修におけるカリキュラム・マネジメントに関する講義・演習を受け、その視点を踏まえて行った授業実践を行い、今回はその映像を基に協議・演習を行った。全体を通じて感じたことは、「カリキュラム・マネジメントにも授業改善にも終わりはない」ということである。今回提示した授業は生徒の実態や他教科・領域との関連を意識して授業を組み立てたが、実際に行ったからこそ見えてくる新たな課題も明らかとなった。今後もチャレンジする姿勢をもちつつ、ＰＤＣＡサイクルを不断に回し続けていくことが肝要であるということをあらためて実感させていただいた。

また、他の受講者の授業映像を視聴したことも、大いに学びとなった。雄物川高校の黒川先生による化学基礎の授業は、生徒の状況をよく理解し、内容を精選しつつ明確な指示のもと進められていた。湯沢翔北高校の佐藤先生によるプログラミングの授業は、スクール・ポリシーを踏まえて、体験的・実践的な学習が進められていた。秋田中央高校の楢岡先生による家庭基礎の授業は、徹底した教材研究に基づき、生徒が主体となって個別・最適な学びが実現されていた。以上のような他教科の先生方の優れた点を、取り入れていきたい。

教科での協議・演習においては、今回提示した授業を基に、生徒に身に付けさせたい資質・能力を育てるための手立てや授業改善の視点について、ご指導いただいた。今回の研修で得た学びを日々の業務に活用しつつ、引き続き研修を重ね、今後も指導力向上に努めていきたい。

令和５年度秋田県公立高等学校中堅教諭等資質向上研修を終えて

英語科　佐々木　瑞穂

Ⅰ　校内研修

校内研修では、中堅教諭として求められるミドルリーダーとしての役割や心構えについて指導していただいた。各分掌での役割、学年経営や学級経営、教科指導、生徒指導や進路指導など、学校運営に関して広い視野に立って考え、学ぶことができた１年間であった。秋田県の教員を志した時の初心に立ち返りながら、また今での経験から学んだことを糧として、中堅教諭としての資質・能力の向上に努めた研修となった。これからの教員として今後も求め続けられる資質や能力を確認し、さらに、学校運営に参画する中堅教員としての自覚を高めることもできたと思う。この研修を、新たなステージの始まりと捉え、これからも自己の研鑽に努めていきたい。

Ⅱ　校外研修

１　総合教育センターでの研修

１年間の中堅教諭等資質向上研修講座を振り返り、特に印象深く考えさせられた研修は、第Ⅰ期の研修講座の内容である。第Ⅰ期の講義を通して、本研修が「中堅教諭としての自覚や学校運営参画意識を高め、ミドルリーダーに必要とされる資質の向上を図る」という目的のもとに実施されること、教職に携わる上で重要な研修であることを改めて認識した。自分の今までの教職経験を顧みながら、期待させる教師としての在り方、そして職責の重さを改めて自覚した研修であった。

秋田県教職員研修体系にある秋田県教職キャリア指標では、実践的指導力の充実が求められる第３ステージに突入する。教員としての節目の時期を迎えることになり、考え方や行動のシフトチェンジが必要である。採用時の意欲や教育的情熱を思い返し、より理想を求め自己研鑽していく姿勢が大切になってくる。今までの実践を謙虚に振り返り、変わりゆく社会の中でしなやかに対応できる生徒の育成を目指し、学び続ける教師でありたいと強く感じた。

「質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略」では、授業研究について技術的な力だけでなく、教育哲学を磨いていくということ、教師自身が成長していく機会とすること、という言葉が印象に残っている。今年度行う授業づくり、研究授業の機会にいかすことができた。

２　授業研修（秋田北高等学校）（指導案は別頁に記載）

今回の研修は、中堅教諭としての自覚や学校運営参画意識を高め、ミドルリーダーに必要とされる資質の向上を図ることを目的としており、中でも教科指導における中堅教員としての実践的指導力についての研修を行った。今回の研修は、これまでの１０年間

で学んだ経験をいかしながらも、初心に立ち返り、教材研修の見直しや生徒理解の重要性について改めて考えるものとなった。

今回の授業はLesson 5の part 4を取り上げた研究授業を行った。前時までの復習、本時への導入、本partの内容理解、そして生徒の言語活動を５０分の中で組み立て実践するものであった。学習指導案の作成時点から指導主事の先生にご指導いただき、生徒の英語を使用しての活動がメインとなる授業づくりを行った。

実際の授業では、生徒とのやり取りを取り入れた活動を意識的に多く行った。生徒は初めての授業者に対しても明るく反応してくれる生徒であり、やり取りを通して教師-生徒の親和的な関係を組み立てながら授業を行うことができた。本時の目標の提示だけでなく授業の流れの提示も、生徒が見通しを持ち安心して学習できる環境づくりにつながったと感じる。また、授業内での学習活動の目的を提示して授業を進めることで、生徒への適切な支援も可能になり、生徒もその目的意識を持って学習に向かうことができたようだ。また、学習指導案作成時には想定していなかった生徒の反応に対し、臨機応変に対応できたようにも感じ、この１０年間で培ってきた指導技術を生かすことができたとも感じる。また、他のお二人の先生方の授業も参観させていただけたことで、自分にはなかった方法で学習活動を組み立てている創意工夫を知ることができ、今後の実践にいかしていきたいと感じた。

本研修で学んだことを自校での授業実践にいかし、目の前の生徒の力を伸ばすべく更に研修を重ねていきたい。

４　その他

選　択　研　修　令和５年８月７日～９日（３日間）

研修場所　葉とらずりんごのさとう果樹園

特定課題研究　研究テーマ「英語学習における音声指導の効果的な指導の在り方について」
（詳細は別頁に記載）

Ⅲ　研修を終えての感想

中堅教諭等資質向上研修を終えるにあたり、中堅教員としての職務や役割についての認識を深めるとともに、教科指導における専門的知識や技術について研修を行うことができた。ミドルリーダーとしての自覚を持ち、広い視野を持って職務にあたる必要性を感じている。指導していただいた先生方のおかげで、分掌や学年などの学校組織における立場や教員の使命を再確認することができた。また、校外でも研修では、さまざまな方との関わり合いを通じて研修を行う機会を得ることができた。

今研修をもって法定年次研修は終わりとなるが、今後も研修の機会を自ら設定し、教員としての資質向上を常に意識して職務にあたりたい。生徒を第一に考え、教員として学校に貢献できる人材となるべく、日々の授業改善、研究と修養に努めていきたい。

秋田北高校　英語科「英語コミュニケーションⅡ」学習指導案

実施日時：令和５年９月５日（火）
対　　象：秋田県立秋田北高等学校２年Ａ組
授 業 者：横手城南高校　佐々木　瑞穂
教 科 書：Heartening English Communication Ⅱ（桐原書店）

1 単元名　Lesson 5 Background Music and Sharks

2 単元の目標

サメの動画において、その BGM が人に与える影響について述べた報告文を読み、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度や、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、効果的な BGM について議論したり、効果的な BGM の提案書を書いたりすることができる。

3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標

身近なことに関して、紹介文や意見文をまとまりのある文章で書くことができる。【GRADE 3 書くこと】

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主知的に学習に取り組む態度
・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現等を理解している。 ・サメの保護への寄付を促すため、サメの映像で使う BGM の提案書を書くことができる。	・BGM が人に与える影響について、要点や根拠を整理して分かりやすく伝えることができる。 ・特定の場面でどの BGM を使うのが効果的かについて理由とともに表現することができる。	・BGM が人に与える影響について、要点や根拠を整理して分かりやすく伝えようとしている。 ・特定の場面でどの BGM を使うのが効果的かについて理由とともに表現しようとしている。

5 単元観

本単元は、サメの映像に使われる BGM が人びとのサメに対する印象にどう影響するかについての報告文を読み、その情報を他の人に伝え、さらに特定の場面でどのような BGM を使うのが効果的かを、理由とともに考える内容となっている。扱われている言語材料は、さまざまな不定詞の表現、seem to do/ seem to have 過去分詞であり、関連する領域別項目は「書くこと」とする。ペアやグループでの活動を通して、新たに得た情報を整理しながら、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度や、環境の保全について考える機会となる単元である。

6 生徒観

真面目で素直な生徒が多く、教科の課題にもしっかり取り組み、授業にも集中して臨んでいる。しかし、英文を主体的に読み込み、そこから自分の思いや考えを論理的に話したり書いたりする発信力を高めていく必要がある。

7 単元の指導と評価の計画（総時数：10時間）

主な言語活動等（◎本時の内容）	評価
・BGM が人に与える影響についての報告文を読んで、要点や根拠を理解することができる。 ◎特定の場面でどの BGM を使うのが効果的か、理由とともに表現することができる。 ・サメの保護への寄付を促すため、サメの映像で使う BGM の提案書を書くことができる。	・活動の観察 ・ワークシート ・定期考査

8 本時の学習（本時7/10）

（1）目標

①Part 4 の概要を捉え、BGM が人に与える影響について理解する。

②特定の場面でどの BGM を使うのが効果的か理由とともに表現することができる。

（2）本時の展開

展開	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 10	1 あいさつ 2 前時までの復習をする。 3 本時の流れと表現活動について確認する。	・２つの実験結果についてペアで振り返りをさせる。
展開Ⅰ 15	4 新出語句の確認 5 リスニング 6 T/F 7 Q&A 8 音読練習	・文字と意味、発音をリンクさせながら確認させる。 ・次の T/F 問題の答えを聞き取れるよう意識させる。 ・根拠となる文を指摘できるよう指示する。 ・音読の目的を提示し、目的意識をもって音読できるよう支援する。
展開Ⅱ 20	9 本時の目標を確認する。 To suggest better BGM 10 与えられた特定の場面において効果的な BGM について考える。 11 BGM を選んだ理由を英語で考える。 12 ペアに自分が選んだ BGM について理由とともに説明する。 13 クラス全体に自分の考えを発表する。 14 自分の選んだ BGM について、発表した/発表を聞いたことを参考にして、英文にまとめる。	・教師が提示したいくつかの場面設定から１つ選び、その状況に合わせた効果的な BGM を１つ選ぶ。 ・選んだ BGM ついて、その理由を本文の内容や表現を参考にして英文で表現するよう指示する。 ・相手に自分の考えを理解してもらえるように、自分の考えを整理してわかりやすく伝えるよう声がけを行う。 ［評価］ BGM が人に与える影響について理解したことをもとに、特定の場面でどの BGM を使うのが効果的か、理由とともに分かりやすく伝え合っている。（ワークシート/活動の観察） 【思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度】 ・発表者には自分の考えを分かりやすく伝えるよう声がけを行い、聞く側の生徒には発表者の選んだ BGM とその理由を聞き取れるように指示する。 ・ワークシートの流れに沿って、理由とともに表現できるように支援する。
まとめ 5	15 まとめ	・本時の中で一番印象に残っていることについて振り返り、全体で共有させる。

令和５年度中堅教諭等資質向上研修

特　定　課　題　研　究　レ　ポ　ー　ト

所　属　校	県立横手城南　　高等学校	職・氏名	教諭　佐々木　瑞穂
研 究 内 容	Ａ：本県の教育課題に関する研究 Ｃ：生徒指導に関する研究 Ｅ：道徳教育に関する研究 Ｇ：総合的な学習の時間に関する研究 Ｉ：その他		Ｂ：マネジメントに関する研究 Ⓓ：教科指導に関する研究 Ｆ：特別活動に関する研究 Ｈ：特別支援教育に関する研究
研究テーマ	英語学習における音声指導の効果的な指導の在り方について		

１　研究の概要

今年度、本校英語科が設定している「学習指導要領に基づいた授業改善を通して、主体的な学習態度をはぐくむ」という目標に向け、授業研究・授業実践を行ってきた。なかでも「音声指導」に焦点を当て、効果的な音声指導の在り方、音声指導が生徒の主体性や他の技能に与える影響について研究を行った。

本校の生徒は発話への苦手意識があり、教科書本文の音読や英語でのやりとり、パフォーマンステストへの抵抗感を持つ生徒が多い。習熟度別クラス（発展コース）で学習している２年生４７名の生徒のうち５９．５%の生徒が発音について「苦手である、どちらかといえば苦手である、どちらともいえない」と回答している。そのことが、 意欲的な学習態度に影響を与えていると感じる場面がある。生徒たちは、英語でやりとりをしたいという気持ちはあるが、いざ発音する場面になると緊張してしまう、単語の発音が分からずに止まってしまう、英語が発音できないためにコミュニケーションを始めること自体を諦めてしまう傾向が見られる。このような背景から、自信を持って発話できるようになることが、生徒の英語学習に対する関心意欲を高め、英語力の育成に影響を与えるのではないかと考える。特定課題研究では、効果的な音声指導の在り方について考察するとともに、音声指導が与える英語学習への影響について研究を行った。

１年次のパフォーマンステストの分析結果、また生徒のアンケートから、英単語の発音、そして語と語のつながりを意識した発音に困難を抱えていることが分かった。新出語句が読めずに止まってしまう、一語一語のつながりを意識した発話ができず、発話速度が遅くなり、内容が伝えづらくなっているなどの状況がある。このような英語の発話についての苦手意識や不安感が、授業内での英語でのやりとりだけでなく、英単語の学習や読解活動、そして聞き取り活動にも影響があるのではないかと考える。

本研究では、本校２年生習熟度別クラス（発展コース）の生徒を対象として、①新出単語の発音学習の工夫、②教科書本文の音読活動の実施、③話すこと（英語でのやりとり、プレゼンテーションの準備段階での発音指導）、④聞き取り学習への音読活動の導入、という４点を意識して授業実践を行い、検証を行った。

２　成果と課題

①新出語句の学習の際には、CDでの音声確認、音読練習を行った。音読練習については、CDまたは教師の発話のリピートを複数回行い、発話回数を増やした。また個人での発話練習だけでなく、ペアまたはグループでの発話練習も取り入れ、生徒が英語を発話する機会を多く設定した。また、学習アプリを使用し、正しい発音の確認、自分の発話を録音してAIに発音の採点をしてもらうなどの学習活動を行った。２年生となり学習する英単語も難しくなっているが、方法を変えて何度も発音練習することで「最初は読みづらい単語も何回も練習することでスラスラと読むことができ、その達成感が得られた。」と感じている生徒も増えてきた。電子辞書の発音機能やクロームブックを利用した発音確認も、個に応じた発音学習にもつながり効果的であると感じる。

②教科書本文の音読活動では、新出語句の学習とはちがい、CDの音声を聞き、教師の発音にリピートして練習したからといってすぐにはうまく発音、音読できないという困難を抱えている生徒が見られた。困難を感じる点として「難しい発音の単語がありつまずいてしまう」という単語レベルの難しさから、「語と語をくっつけて音読することが難しい」というリエゾンの難しさ、そして「カタカナ表記の日本語に対応する単語は、日本語の発音に引きづられてしまいうまく音読できなくなる」といった母語が与える影響による困難さなど、多岐に渡っていることが分かった。単語の発音だけではなく、まとまった

英文の音声指導の在り方を工夫する必要がある。

③話すこと（英語でのやりとり、プレゼンテーションの準備段階での発音指導）については、３４％の生徒が今後力を入れて取り組みたいと回答している項目である。授業では「週末の出来事についてクラスメイトに英語で説明することができる」という学習目標を設定し、過去形を用いた英語での学習活動を行った。即興性を持った授業展開も考えられたが、今回は事前に原稿を準備し、発音の確認、発音の練習の時間を設定してから表現活動に移る指導案を作成し、授業実践を行った。発音練習の際は、ALTの指導と英語学習アプリを利用した。英語の発音に自信がない生徒でも、事前に練習し、発音が不安な単語の確認ができることが自信や安心感につながり、意欲的に英語でのやりとりを行っていた。生徒の感想からも「自分の英語の発音の癖が分かった」「自分では上手く発音できていたと思っていたが、確認したら上手く伝わっていなかったことが分かった」「自分の発音が合っていると自信になった」という肯定的な感想を持ち、今後の学習に生かしていきたいとい感じている生徒がいるということが分かった。一方で、「発音の練習に時間が取られてしまい、内容を深める時間を取ることができなかった」という課題を提示してくれた生徒もいた。発音についての学習が、生徒の自信や主体的な学習につながる可能性を感じつつも、内容を深める力、生徒の思考力・判断力の育成のためにより効果的な方法を模索していく必要もあると感じた。

④聞き取り学習でも音読活動を取り入れている。リスニングを苦手をしている学習者の特徴として「単語または英文を発音できないために聞き取ることができない」という点が挙げられる。今までの授業では、リスニング問題を解き、放送原稿の確認だけで終わってしまっていたが、今年度は問題に取り組んだ後に放送原稿を音読し、再度リスニング問題を確認するようにしている。この取り組みについては、まだ始めたばかりであり効果は検証できていないが、生徒の反応としては「初めは聞き取れなかった英文が音読したことにより意味ある文として認識できるようになった」という感想を聞くことができた。今後、音声指導をリスニング活動にも取り入れていきたいと考えている。

今回の特定課題研究で重点課題として取り組んだ音声指導は、英語学習の中でも重要な位置を占める項目である。今回の研究を通して、発音指導が持つ言語学習への効果、生徒の反応などについて研究することができた。今年度の実践で成果が見られた点については、今後の授業実践でも引き続き行っていきたい。また、課題として挙げられた「音声指導を生徒の主体性や思考力・判断力の育成にどのように結びつけていくか、そしてその力をどのように表現する力へとつなげていくか」について、さらに研修を重ねていきたい。

令和５年度　第２回生活･学習･進路に関するアンケート集計結果

横手城南高等学校　研修部

１　目　的　生活や学習に関する現状を把握し、今後の生活指導、学習指導、進路指導に活用するための資料とする。

２　実施期間　令和５年１２月８日（金）～１５日（金）

３　実施方法　Chrome Book から「Google Chat」を通して「Google Forms」でアンケートを取り、表計算ソフト EXCEL で集計した。

４　回答率　１年生 144 名(在籍 147 名)　98.0%
２年生 144 名(在籍 150 名)　96.0%
３年生 147 名(在籍 155 名)　94.9%
全 体　435 名(在籍 452 名)　96.2%
※令和４年度　回答数 459 名（在籍 471 名）回答率 97.5%

５　質問事項（37 問）

（１）質問 1～15：進路希望、学校及び家庭生活、学習状況に関する質問

質問１　本校に入学した動機は次のどれですか、1 個選んでください。
① 自分の学力にふさわしいと考えたから　② 進学に有利だと考えたから
③ 就職に有利だと考えたから　④ 通学に便利だと考えたから
⑤ 部活動で頑張りたいと考えたから　⑥ 親や中学校の担任の勧めから
⑦ その他の理由から

質問２　本校に入学して満足していますか。1 個選んでください。
① おおいに満足している　② だいたい満足している
③ 少し不満を感じている　④ かなり不満を感じている

質問３　高校卒業後はどのような進路を考えていますか。1 個選んでください。
① 国公立４年制大学進学　② 私立４年制大学進学
③ 短大進学（国公私立）　④ 医療系専門学校へ進学
⑤ 医療系以外の専門学校へ進学　⑥ 就職(公務員)
⑦ 就職(民間)　⑧ 未定

質問４　得意な（どちらかといえば得意な）教科はどれですか。1 個選んでください。
① 国語　② 数学　③ 英語　④ 地歴公民　⑤ 理科
⑥ 情報　⑦ 家庭　⑧ 保健体育　⑨ 芸術　⑩ 特にない

質問５　苦手な（どちらかといえば苦手な）教科はどれですか。1 個選んでください。
① 国語　② 数学　③ 英語　④ 地歴公民　⑤ 理科
⑥ 情報　⑦ 家庭　⑧ 保健体育　⑨ 芸術　⑩ 特にない

質問６　家庭での平日の学習時間は、ふつうどれくらいですか。1 個選んでください。
① ほとんどしない(30 分未満)　② 30 分～1 時間　③ 1 時間～2 時間
④ 2 時間～3 時間　⑤ 3 時間～4 時間　⑥ 4 時間以上

質問７　家庭での学習の状態はどれに該当しますか。1 個選んでください。
① 学校の宿題で精一杯である　② 宿題と予習で精一杯である
③ 宿題と予習以外の勉強もわりとできる　④ 宿題も予習も満足にできない

質問 8　授業でわからないことがあったとき、どうしますか。1 個選んでください。
① 先生に質問する　② 補習に参加して分かるように努める
③ 友人に教えてもらう　④ 塾や通信添削を利用する
⑤ そのままにしておく

質問 9　平日の睡眠時間は、どれくらいですか。1 個選んでください。
① 5 時間以下　② 5 時間 30 分　③ 6 時間　④ 6 時間 30 分
⑤ 7 時間　⑥ 7 時間 30 分　⑦ 8 時間以上

質問 10　平日（月曜日～金曜日）に朝食は食べていますか。1 個選んでください。
① 毎朝食べる　② ときどき食べないことがある　③ ほとんど食べない

質問 11　平日の帰宅時刻（自宅に着く時刻）は、ふつう午後何時ころですか。1 個選んでください。
① 5 時前　② 5 時 30 分ころ　③ 6 時ころ　④ 6 時 30 分ころ
⑤ 7 時ころ　⑥ 7 時 30 分ころ　⑦ 8 時ころ　⑧ 8 時 30 分ころ
⑨ 9 時以降

質問 12　家庭では保護者と会話しますか。1 個選んでください。
① よく会話する　② 時々会話する　③ ほとんど会話しない

質問13　あなたは自分の健康状態をどう思いますか。1個選んでください。
① とても健康　② まあまあ健康　③ あまり健康でない

質問14　高校在学中に体験したい活動は何ですか。次の①～⑩について、優先順位の高いものから順番に、3個選んでください。
① 身近な産業や職業についての情報提供　② 職場の見学や就労体験（インターンシップ）
③ 社会人や職業人の講話・講演　④ 大学・短大・専門学校の情報提供や見学
⑤ 大学・短大・専門学校の体験入学　⑥ 大学・短大・専門学校の先生の講話・講演
⑦ 卒業生の体験発表会　⑧ 高等学校の先生の体験談
⑨ 何もいらない　⑩ 特になし

質問15　自分の進路を決めるにあたって、気がかりなことは何ですか。
次の①～⑩について、優先順位の高いものから順番に、3個選んでください。
①学力が足りないかもしれない　②自分の適性がわからない
③自分のやりたいことが見つからない　④社会人として自立する自信がない
⑤情報を集めたり、選んだりする方法がわからない　⑥自分のこととして決断する自信がない
⑦経済的に希望通りにならないかもしれない　⑧特になし

（２）質問 16～37：生徒自身の性格、興味関心、能力に関する質問

◎次の質問についてそれぞれ，選択肢①～⑤のうちの 1 つを選んでください。

①よくあてはまる　②少しあてはまる　③どちらともいえない ④あまりあてはまらない　⑤まったくあてはまらない

質問 16　時間を守り、規則正しい生活をするのは得意である
質問 17　どちらかといえば、慎重で注意深い性格である
質問 18　普段は落ち着いているほうで、めったに取り乱さない
質問 19　人と話をするときには、自分の意見を積極的に言う
質問 20　あれこれ考えるより、すぐに行動することが多い
質問 21　いったんやりかけたことは、最後までやらないと気が済まない
質問 22　新しいことは何でも「見てやろう」「知ってやろう」と思う
質問 23　みんなといっしょに仕事をするのが好きである
質問 24　絵や音楽、演劇などの創造的な芸術活動に興味がある
質問 25　文章を書いたり、読んだりする創作･評論活動に興味がある
質問 26　会計や正確さを必要とする事務的な仕事に興味がある
質問 27　人に会って交渉や取引をしたり、商品の販売をすることに興味がある
質問 28　人々のために奉仕し、援助することに興味がある
質問 29　屋外や自然の中での作業や、農作物を育てることに興味がある
質問 30　機械の製作や修理、または工具･機械を使って作業することに興味がある
質問 31　自然の成り立ちや仕組みを調べ、明らかにする研究活動に興味がある

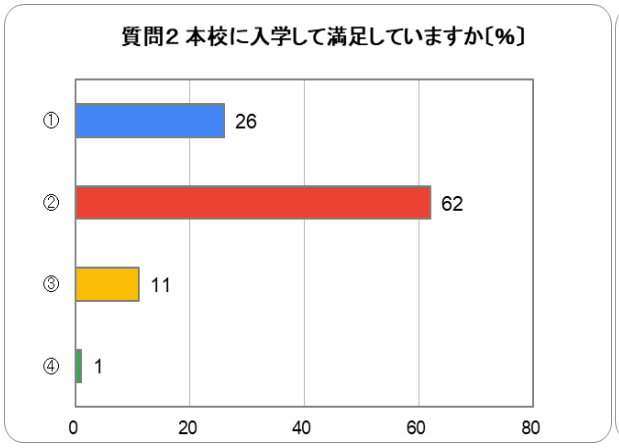
質問 32　物事を事実に基づいて判断し、理解することができる
質問 33　文章を正しく理解し、考えを言葉や文章で表現することができる
質問 34　物事を科学的に考え、研究･実験･調査することが好きである
質問 35　機械を上手に操作し、工具を器用に扱うことができる
質問 36　速く、正確に計算結果を出すことができる
質問 37　数値や文書を書き写したとき、写し間違いがないか素早く正確に確認できる

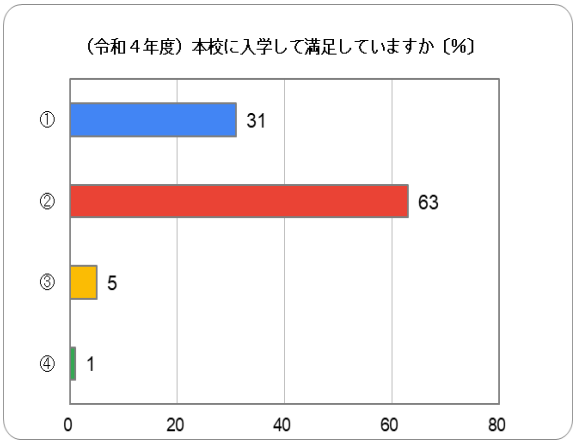
6　集計結果

令和４年度の結果との比較で、一部抜粋して報告する。

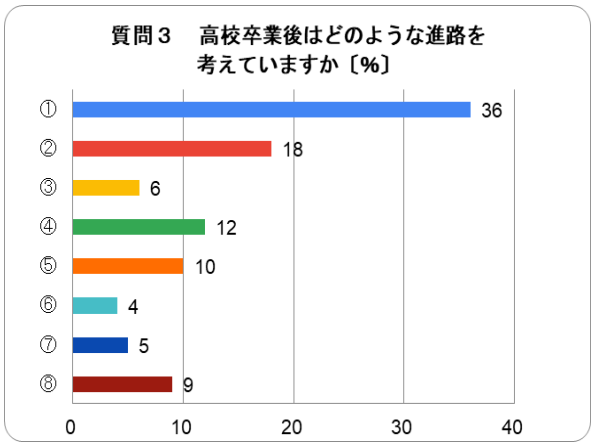
（１）進路希望、学校及び家庭生活、学習状況（質問 2･3･4･5･6･7･8･9･10･12･15）

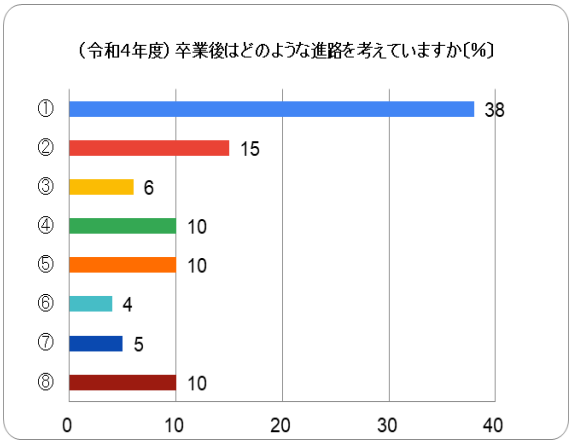
質問２　本校に入学して満足していますか。1 個選んでください。
①　おおいに満足している　　②　だいたい満足している
③　少し不満を感じている　　④　かなり不満を感じている





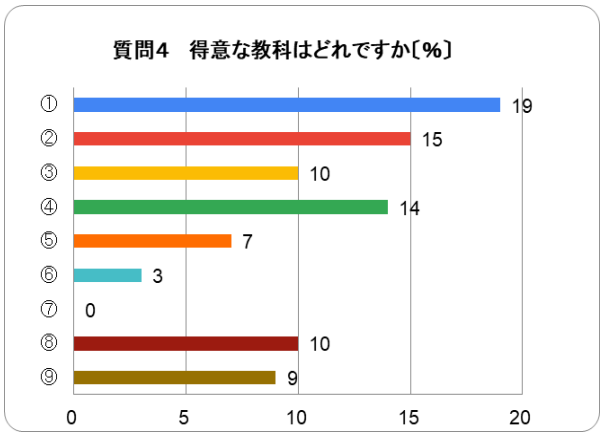
質問３　高校卒業後はどのような進路を考えていますか。1 個選んでください。
①　国公立４年制大学進学　　②　私立４年制大学進学
③　短大進学（国公私立）　　④　医療系専門学校へ進学
⑤　医療系以外の専門学校へ進学　　⑥　就職（公務員）
⑦　就職（民間）　　⑧　未定

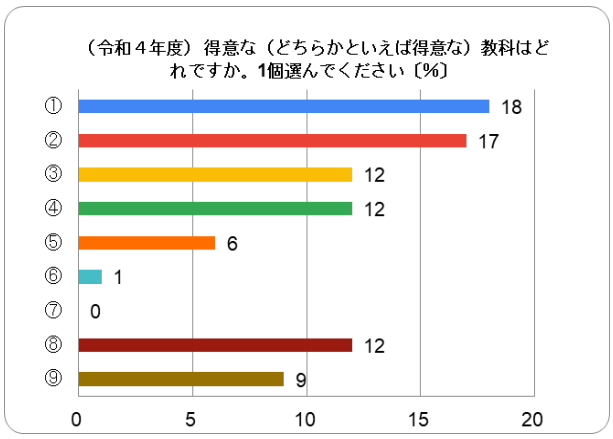




質問４　得意な（どちらかといえば得意な）教科はどれですか。１個選んでください。

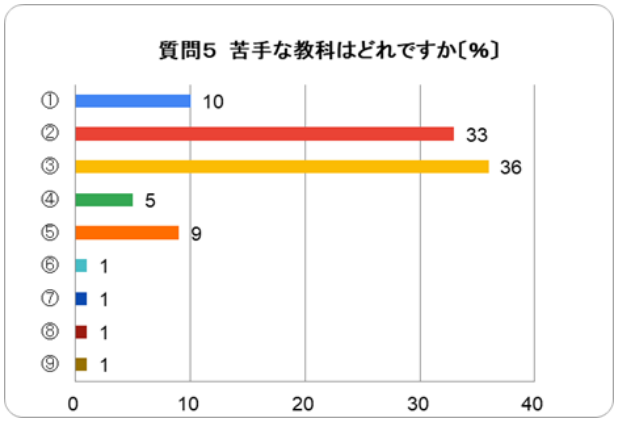
①　国語　　②　数学　　③　英語　　④　地歴公民　　⑤　理科
⑥　情報　　⑦　家庭　　⑧　保健体育　　⑨　芸術　　⑩　特にない

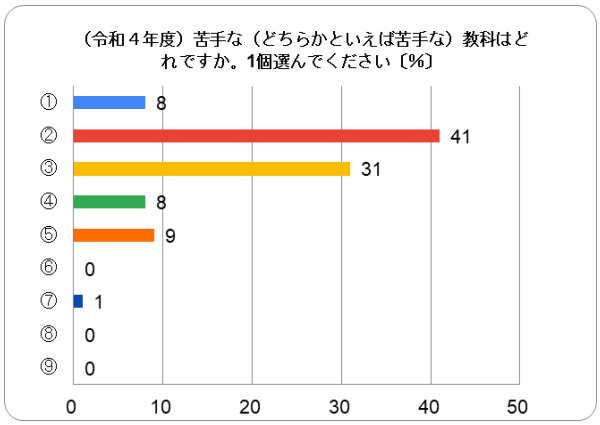




質問５　苦手な（どちらかといえば苦手な）教科はどれですか。１個選んでください。

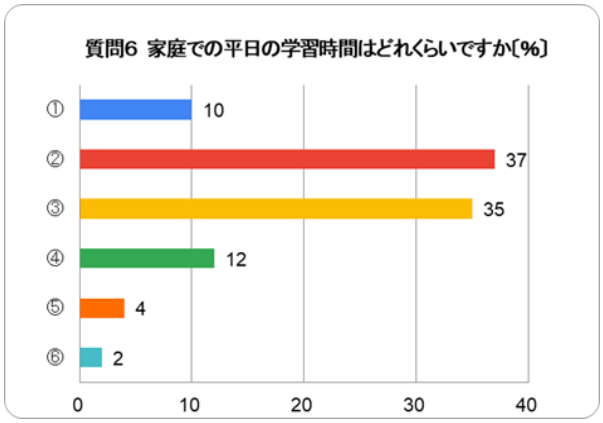
①　国語　　②　数学　　③　英語　　④　地歴公民　　⑤　理科
⑥　情報　　⑦　家庭　　⑧　保健体育　　⑨　芸術　　⑩　特にない

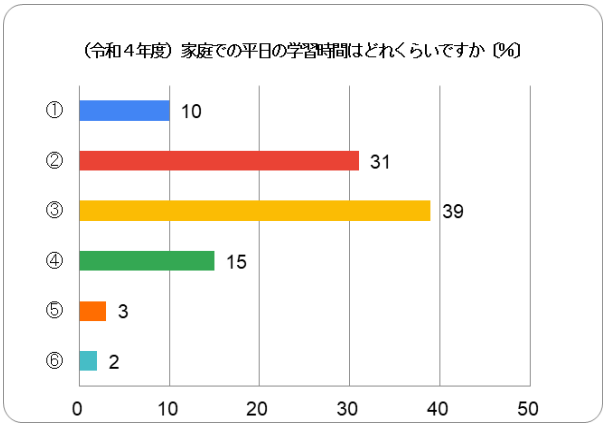




質問６　家庭での平日の学習時間は、ふつうどれくらいですか。１個選んでください。

①　ほとんどしない（30 分未満）　　②　30 分～1 時間　　③　1 時間～2 時間
④　2 時間～3 時間　　⑤　3 時間～4 時間　　⑥　4 時間以上

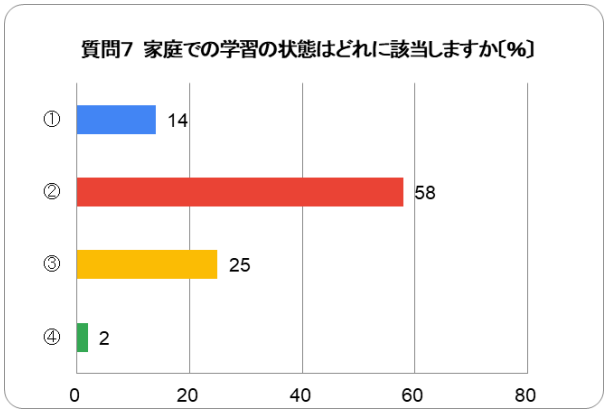


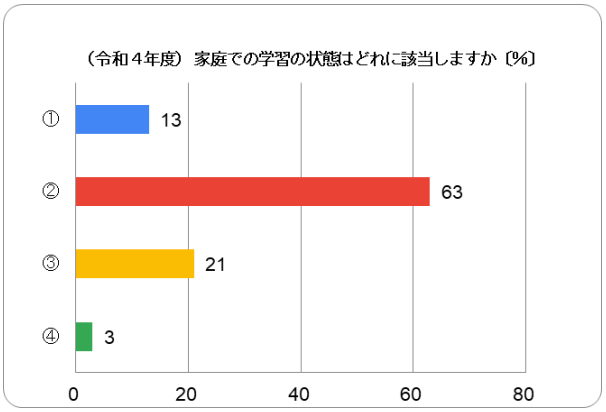


質問７　家庭での学習の状態はどれに該当しますか。1個選んでください。

① 学校の宿題で精一杯である　　② 宿題と予習で精一杯である

③ 宿題と予習以外の勉強もわりとできる　　④ 宿題も予習も満足にできない



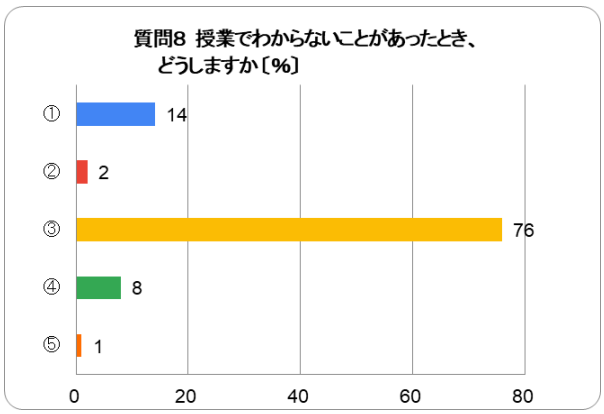


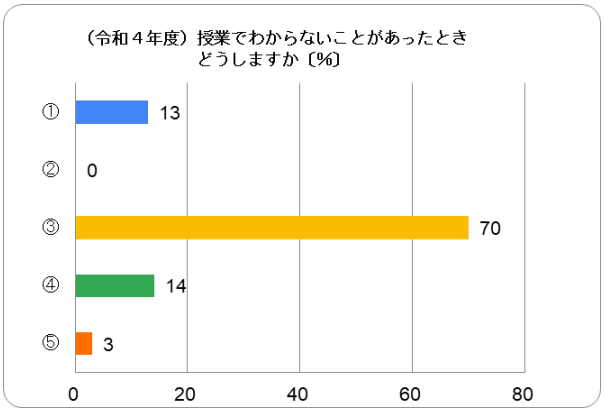
質問８　授業でわからないことがあったとき、どうしますか。1個選んでください。

① 先生に質問する　　② 補習に参加して分かるように努める

③ 友人に教えてもらう　　④ 塾や通信添削を利用する

⑤ そのままにしておく

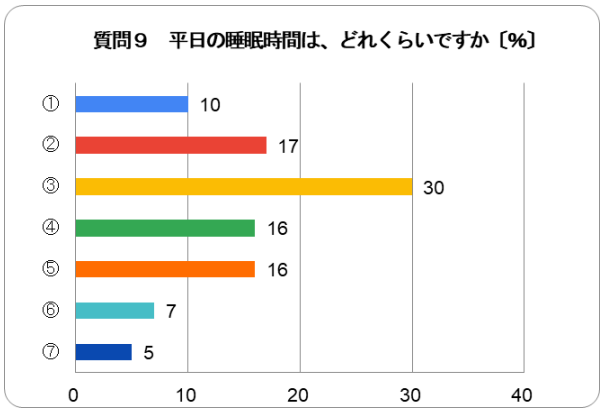


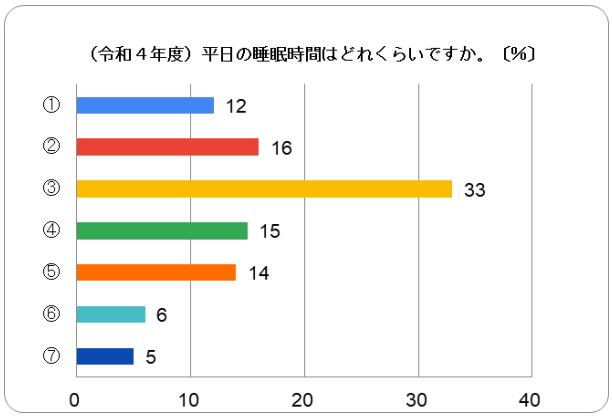


質問９　平日の睡眠時間は、どれくらいですか。1個選んでください。

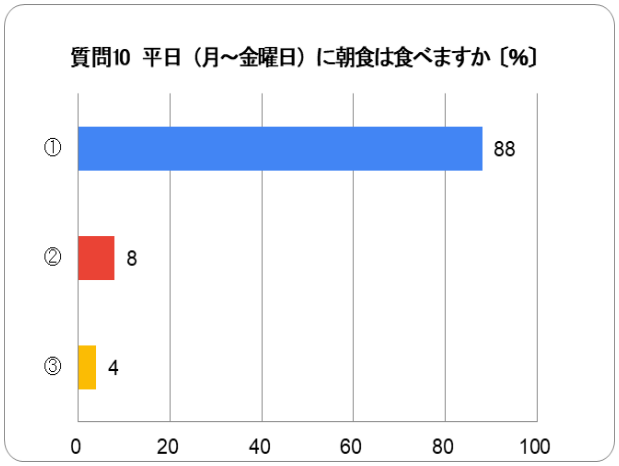
① ５時間以下　　② ５時間 30 分　　③ ６時間　　④ ６時間 30 分

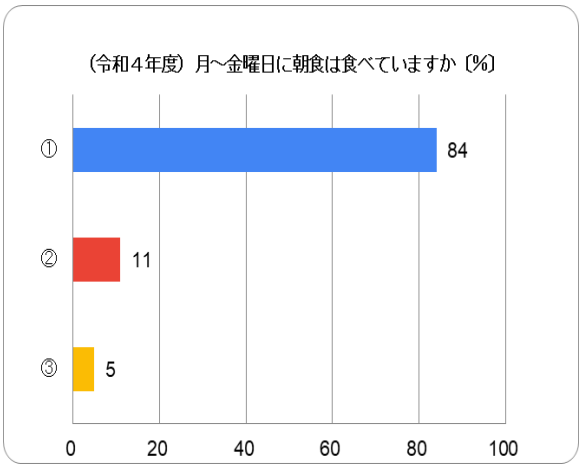
⑤ ７時間　　⑥ ７時間 30 分　　⑦ ８時間以上



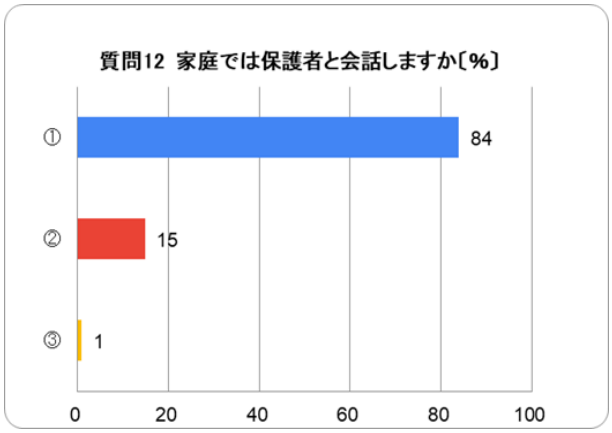


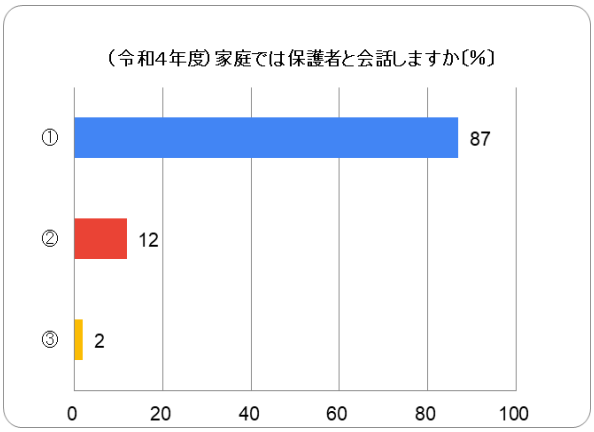
質問 10　平日（月曜日～金曜日）に朝食は食べていますか。1 個選んでください。
① 毎朝食べる　② ときどき食べないことがある　③ ほとんど食べない





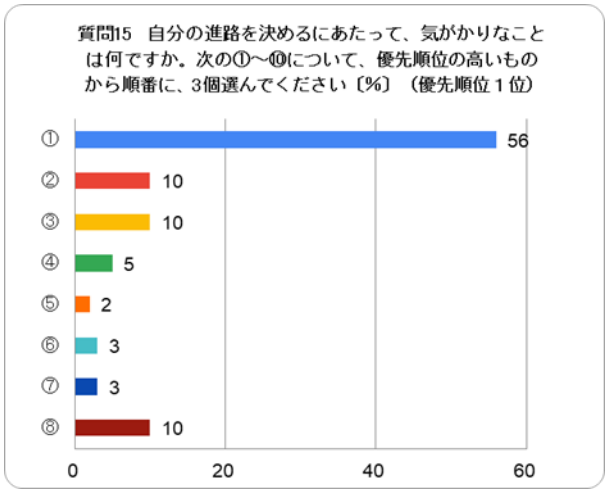
質問 12　家庭では保護者と会話しますか。1 個選んでください。
① よく会話する　② 時々会話する　③ ほとんど会話しない

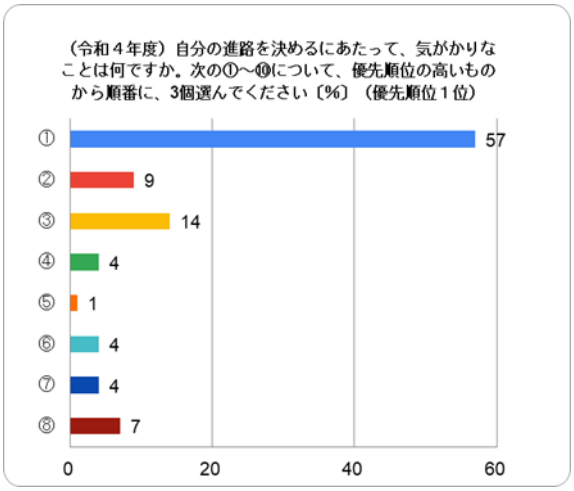


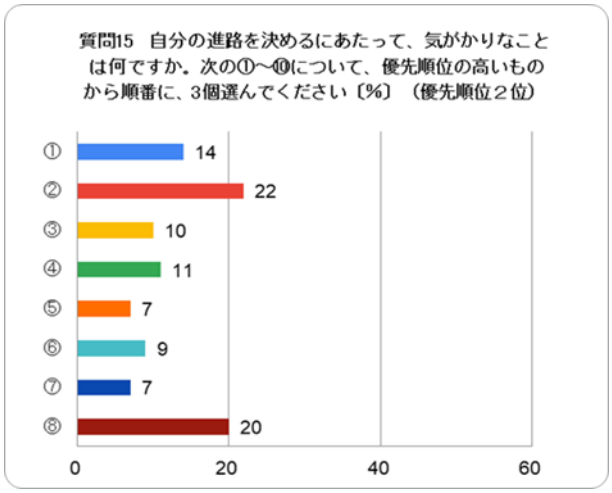


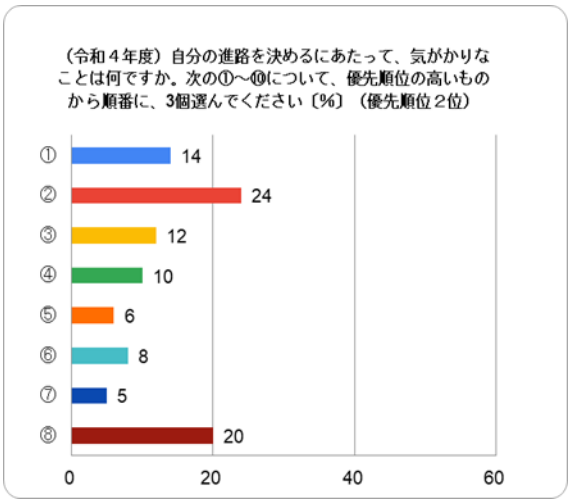
質問15　自分の進路を決めるにあたって、気がかりなことは何ですか。次の①～⑩について、優先順位の高いものから順番に、3個選んでください。

①学力が足りないかもしれない　②自分の適性がわからない
③自分のやりたいことが見つからない　④社会人として自立する自信がない
⑤情報を集めたり、選んだりする方法がわからない　⑥自分のこととして決断する自信がない
⑦経済的に希望通りにならないかもしれない　⑧特になし









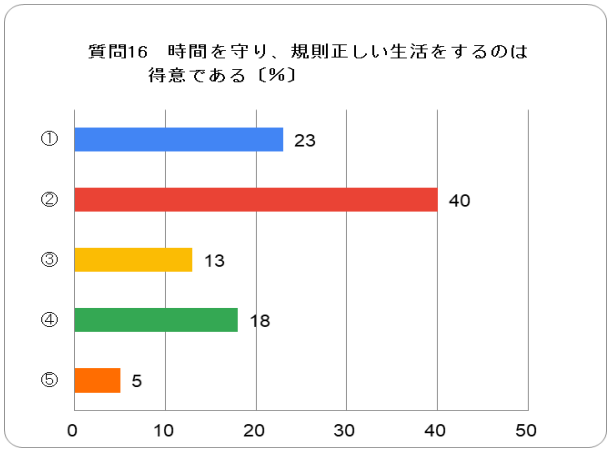
（２）生徒自身の性格、興味関心、能力（質問 16～37）

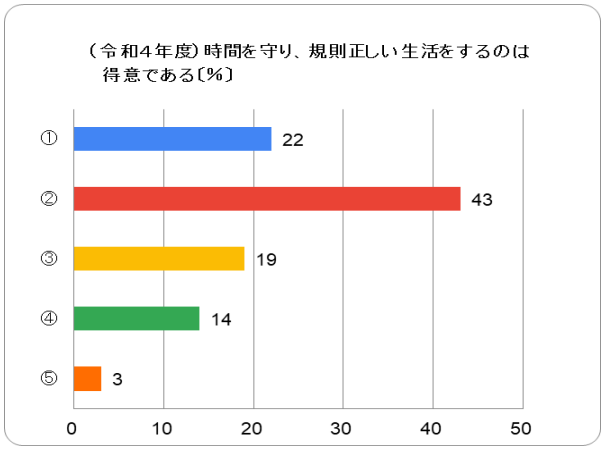
◎次の質問についてそれぞれ，選択肢①～⑤のうちの１つを選んでください。

①よくあてはまる	②少しあてはまる	③どちらともいえない
④あまりあてはまらない	⑤まったくあてはまらない	

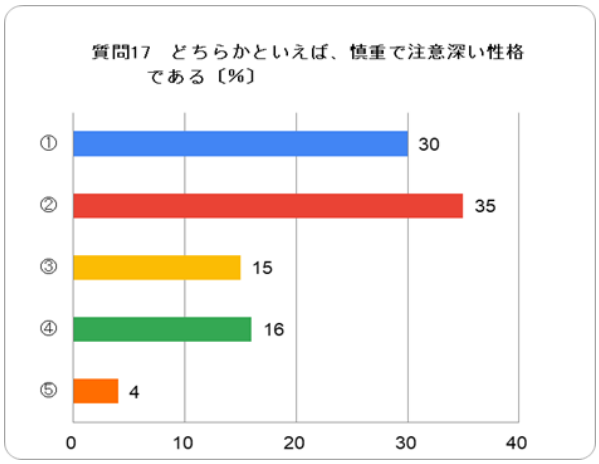
〔自分自身の性格について〕

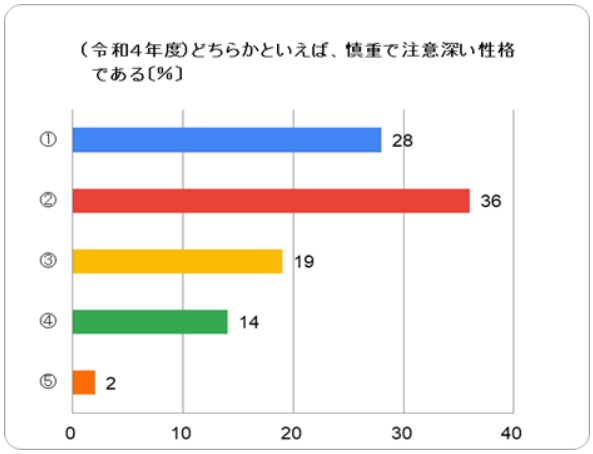
質問 16　時間を守り、規則正しい生活をするのは得意である



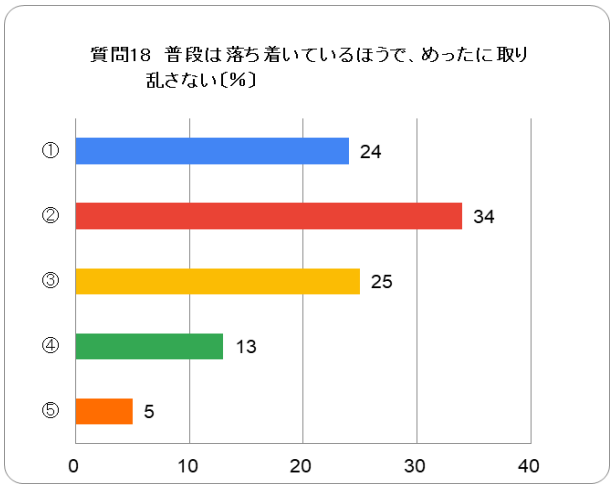


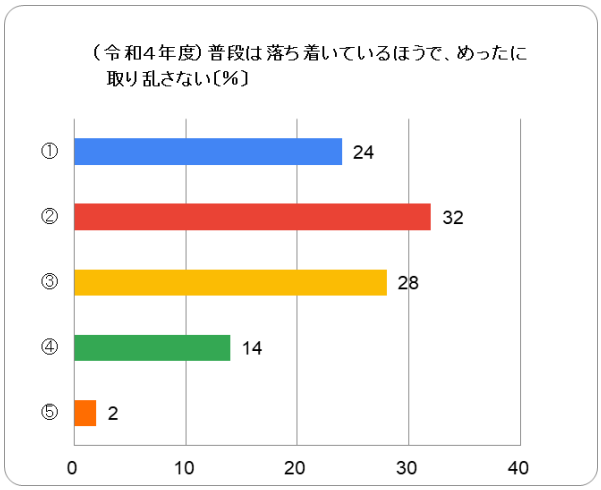
質問 17　どちらかといえば、慎重で注意深い性格である



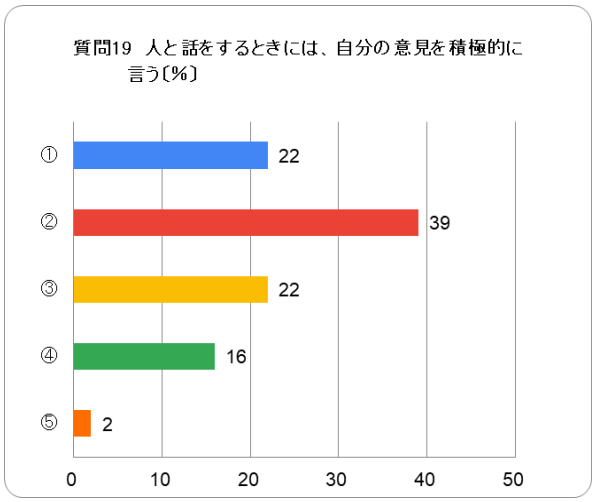


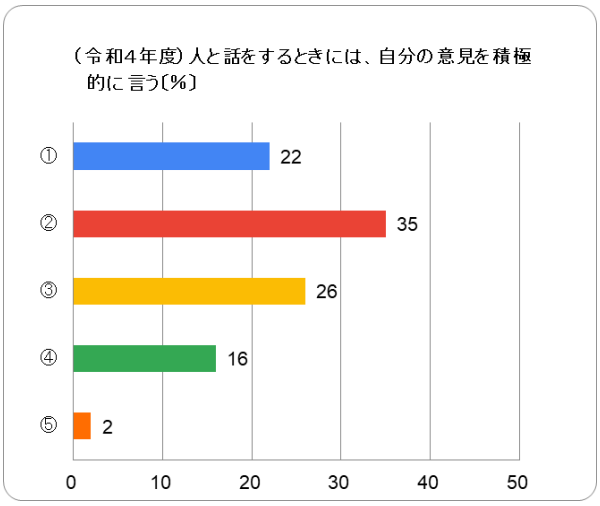
質問 18　普段は落ち着いているほうで、めったに取り乱さない



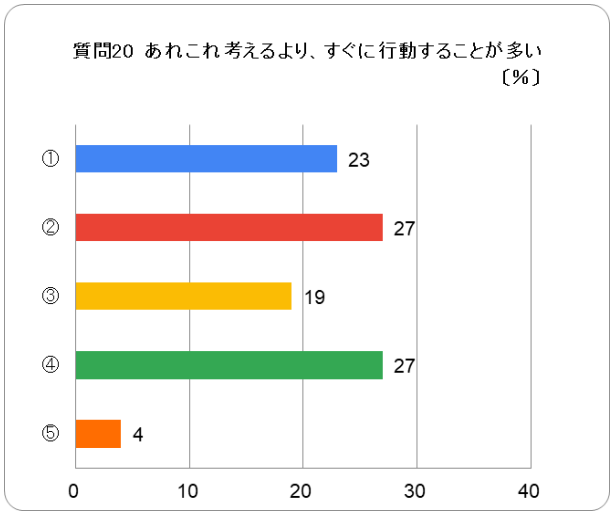


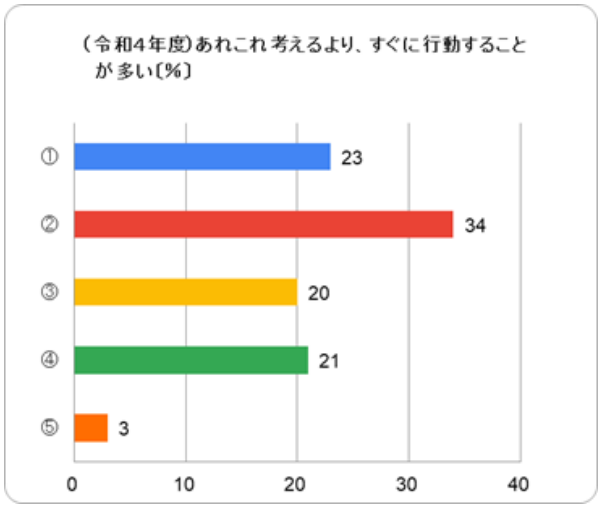
質問 19　人と話をするときには、自分の意見を積極的に言う



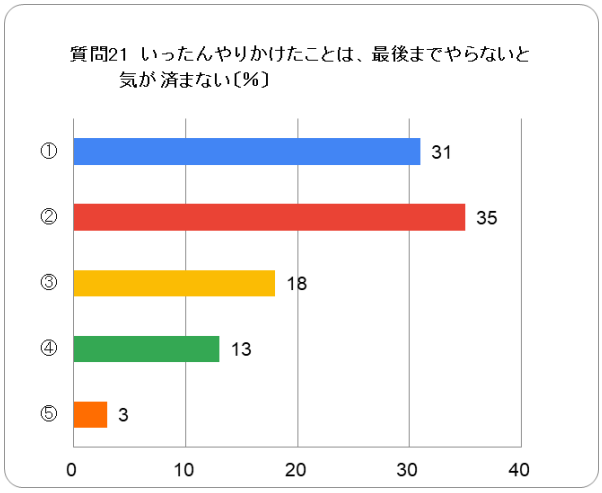


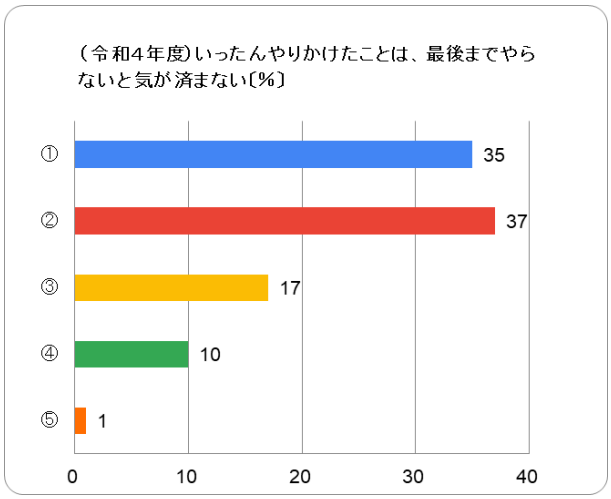
質問 20　あれこれ考えるより、すぐに行動することが多い



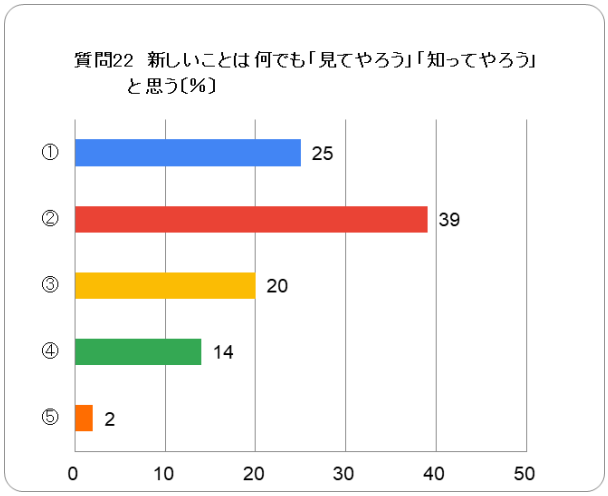


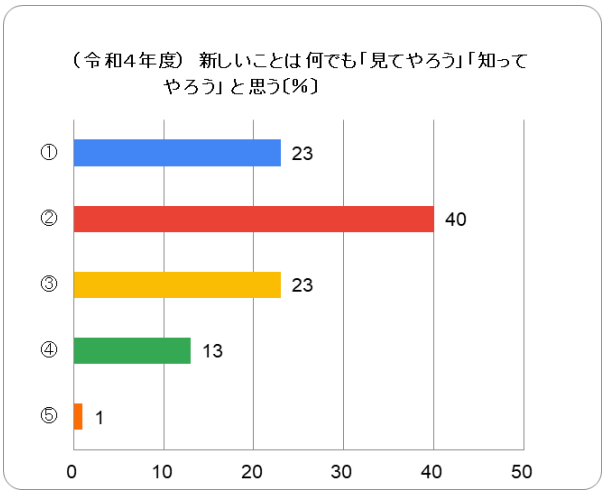
質問 21　いったんやりかけたことは、最後までやらないと気が済まない



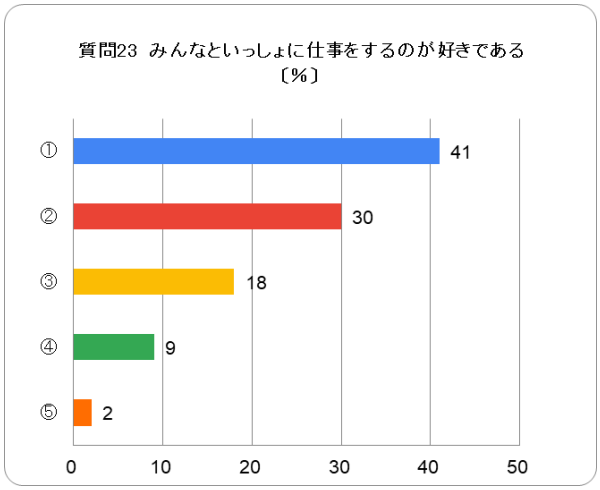


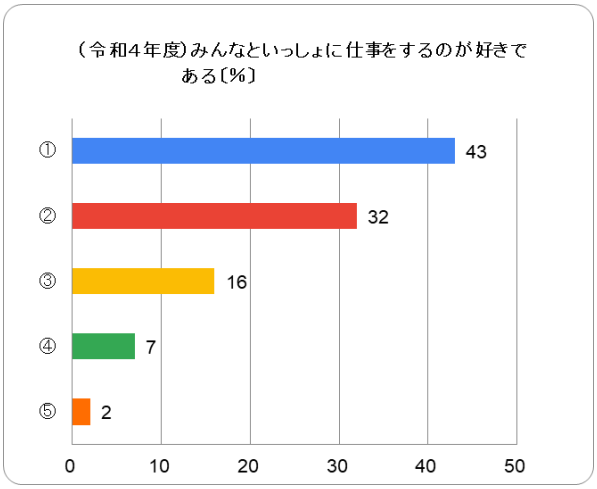
質問 22　新しいことは何でも「見てやろう」「知ってやろう」と思う





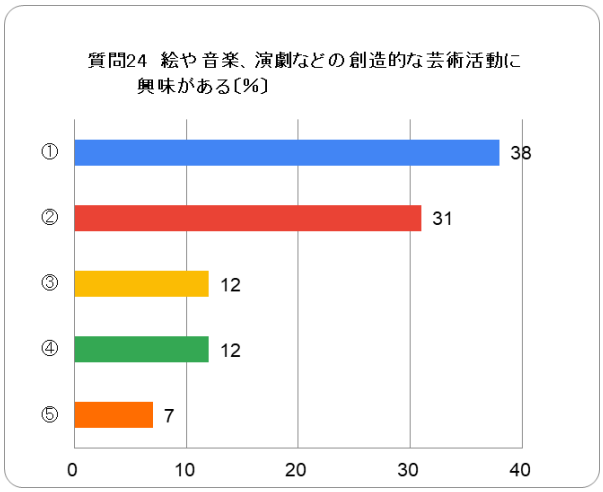
質問 23　みんなといっしょに仕事をするのが好きである

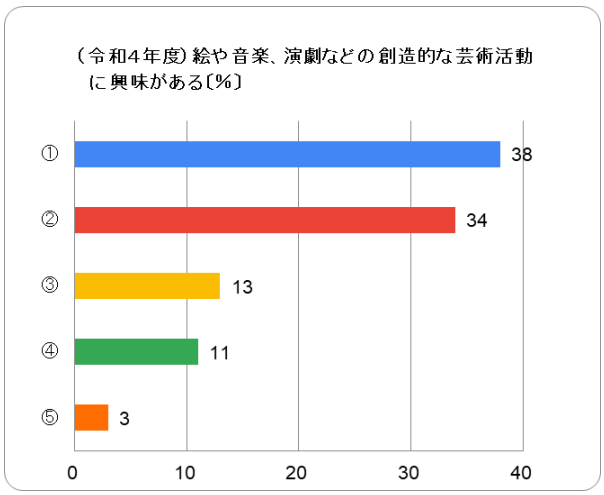




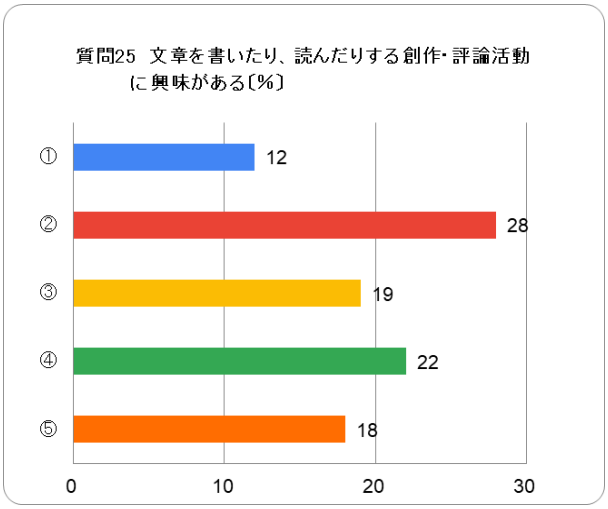
〔自分が興味・関心を持っていることについて〕

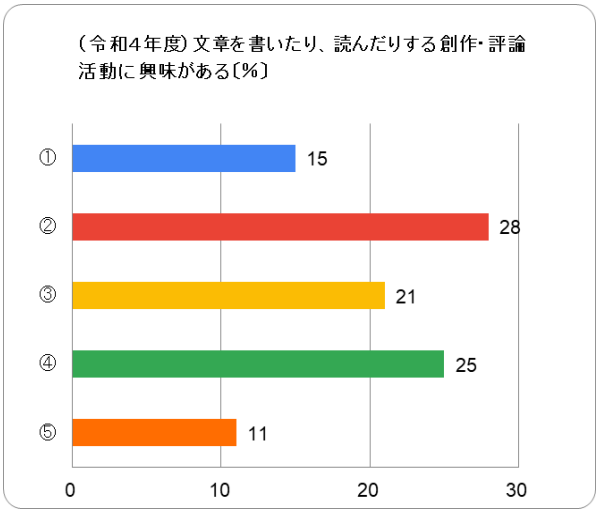
質問 24　絵や音楽、演劇などの創造的な芸術活動に興味がある



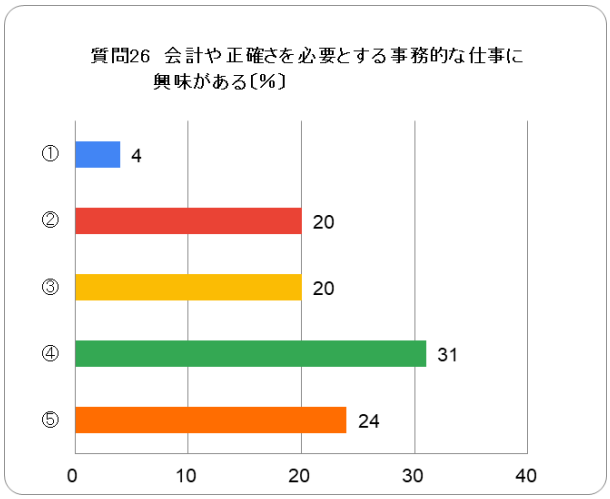


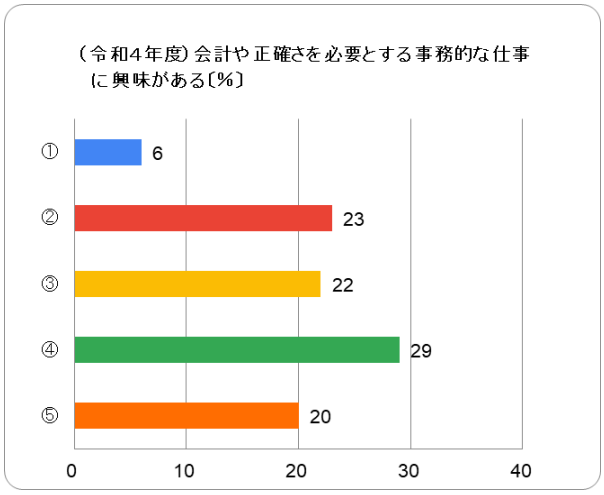
質問 25　文章を書いたり、読んだりする創作･評論活動に興味がある



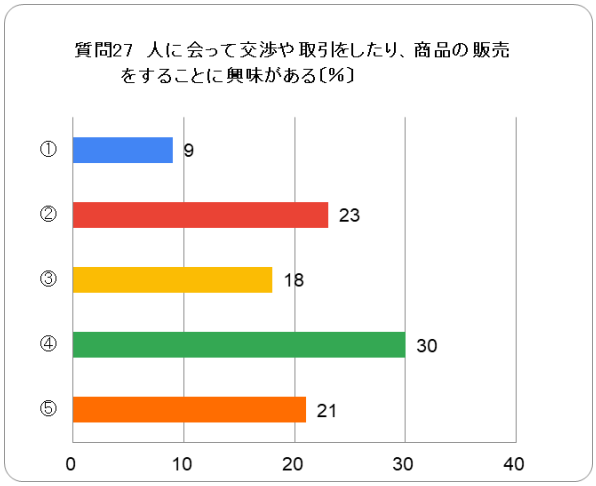


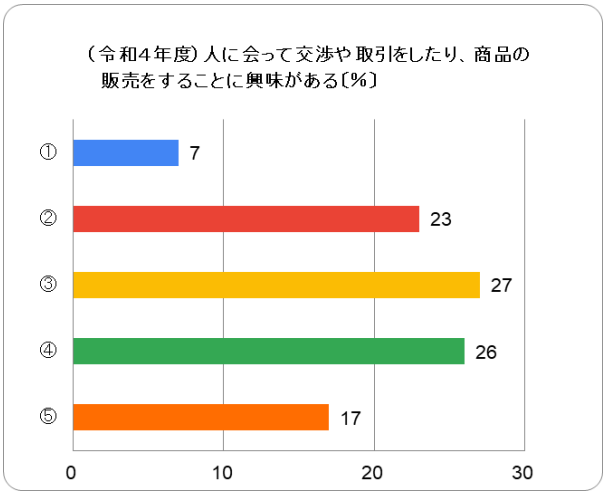
質問 26　会計や正確さを必要とする事務的な仕事に興味がある



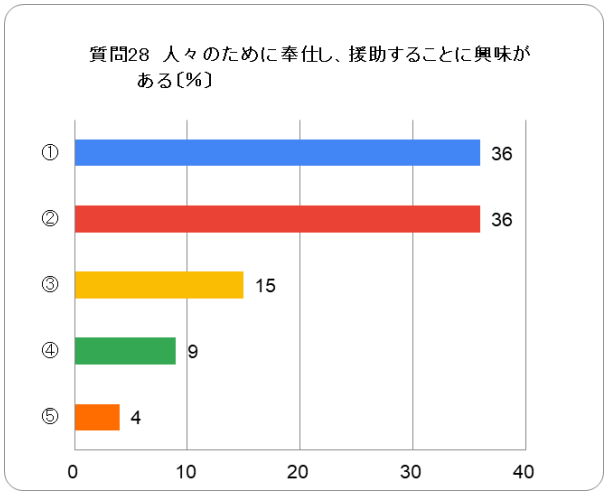


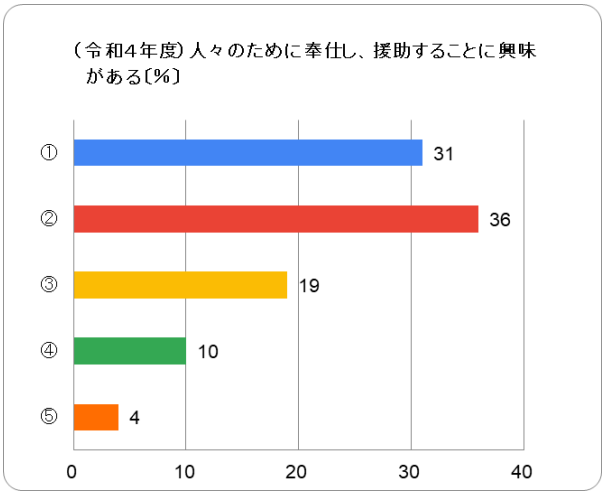
質問 27　人に会って交渉や取引をしたり、商品の販売をすることに興味がある



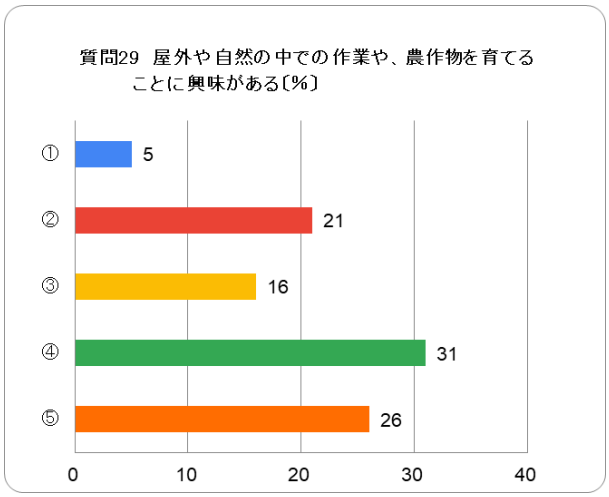


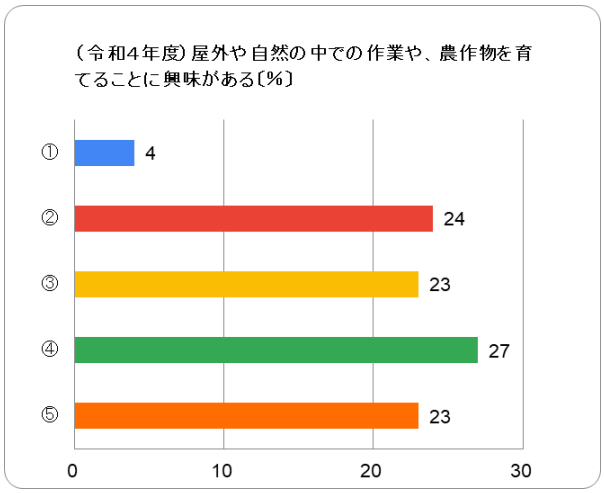
質問 28　人々のために奉仕し、援助することに興味がある



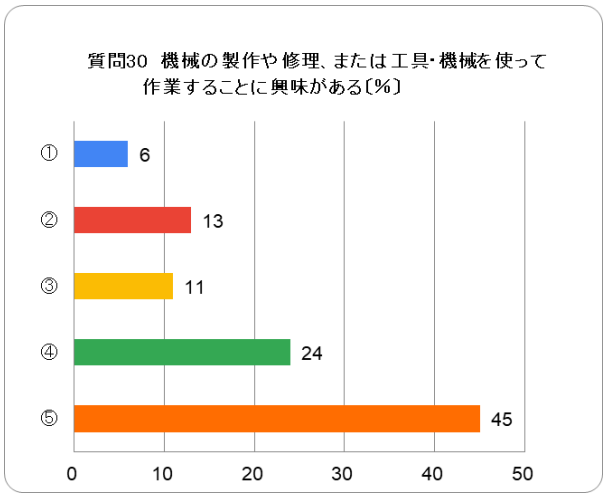


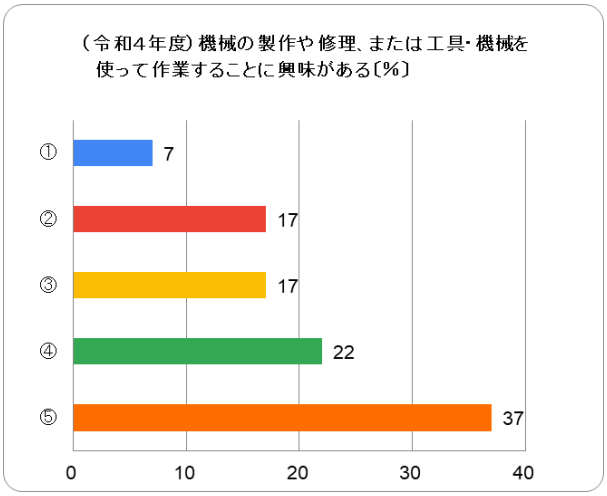
質問 29　屋外や自然の中での作業や、農作物を育てることに興味がある



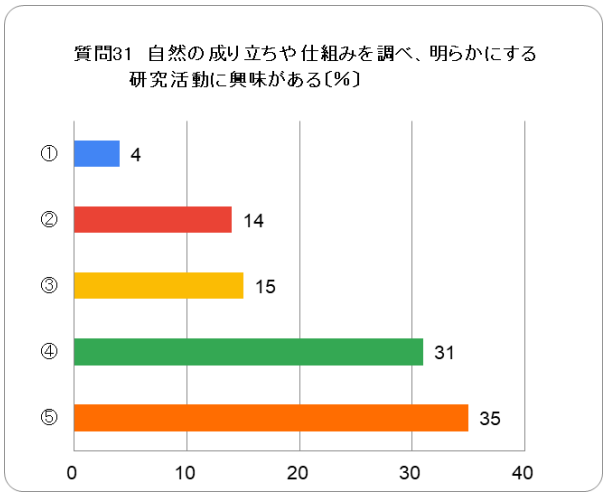


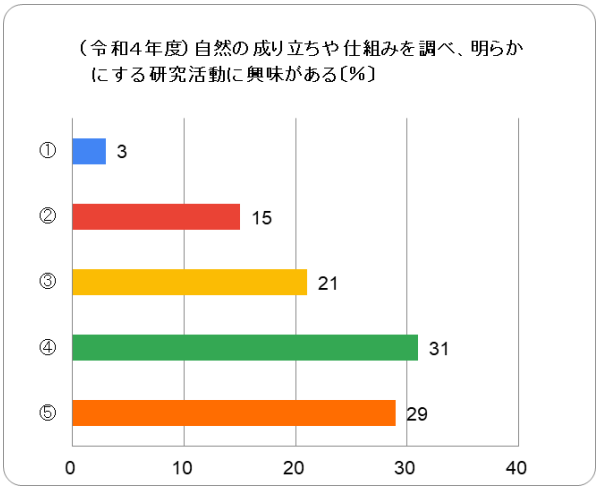
質問 30　機械の製作や修理、または工具･機械を使って作業することに興味がある





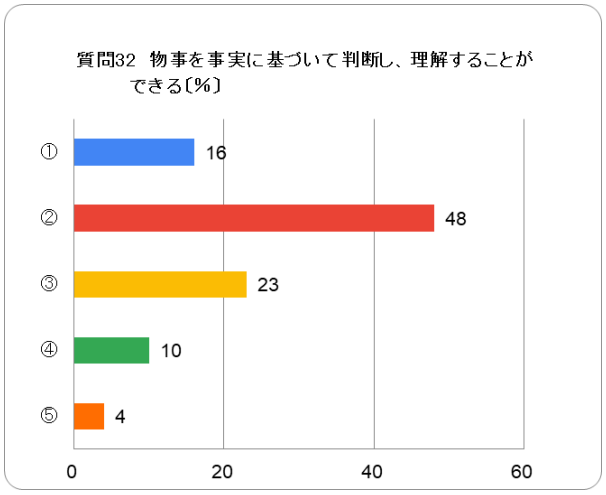
質問 31　自然の成り立ちや仕組みを調べ、明らかにする研究活動に興味がある

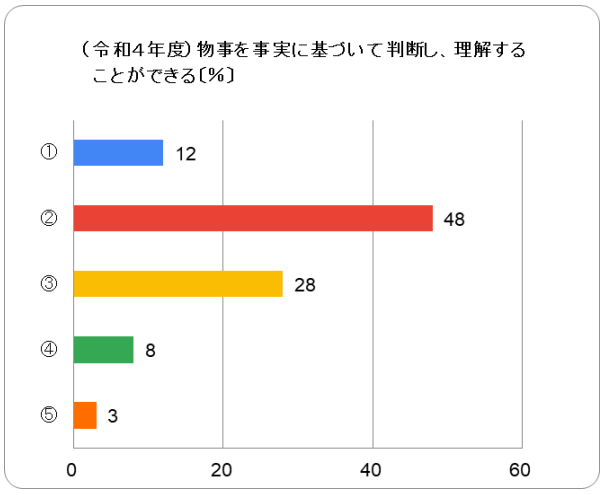




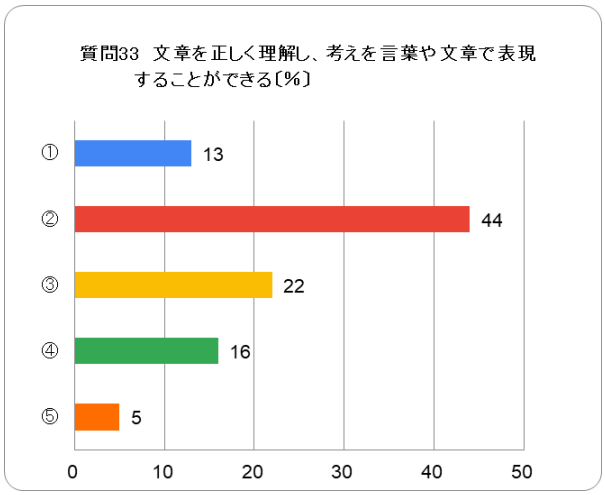
〔自分自身の能力について〕

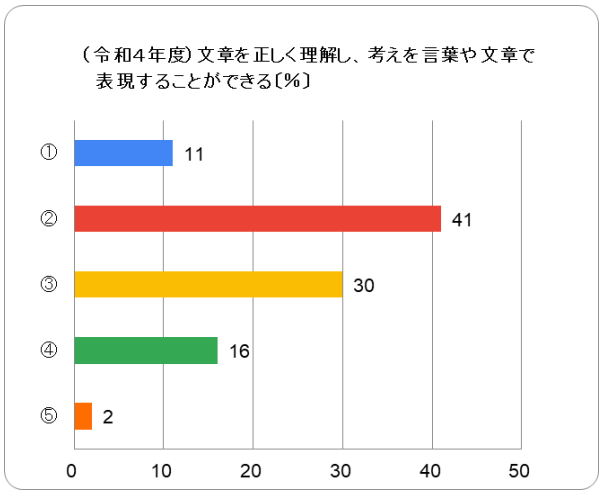
質問 32　物事を事実に基づいて判断し、理解することができる



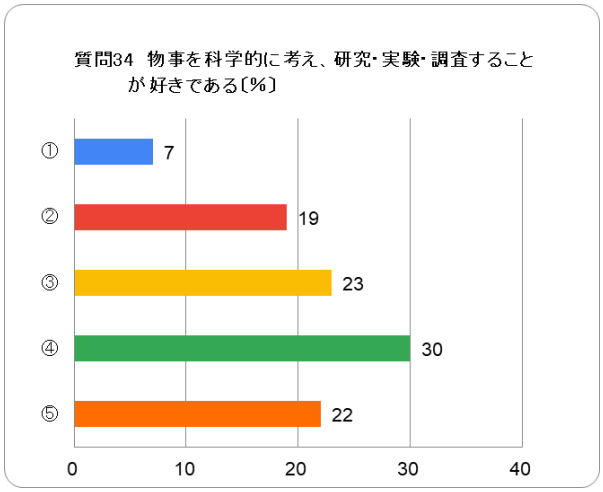


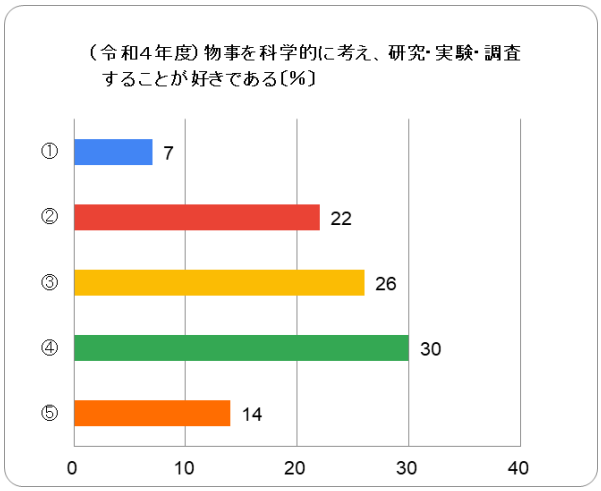
質問 33　文章を正しく理解し、考えを言葉や文章で表現することができる



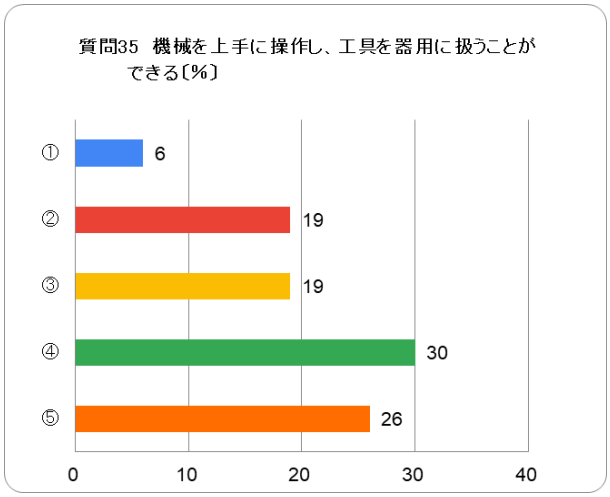


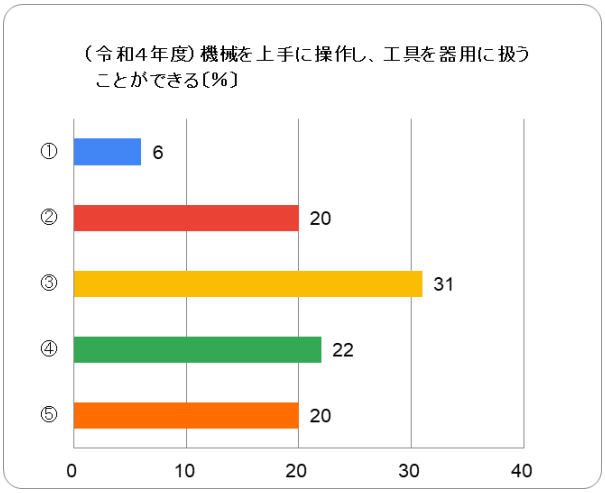
質問 34　物事を科学的に考え、研究･実験･調査することが好きである



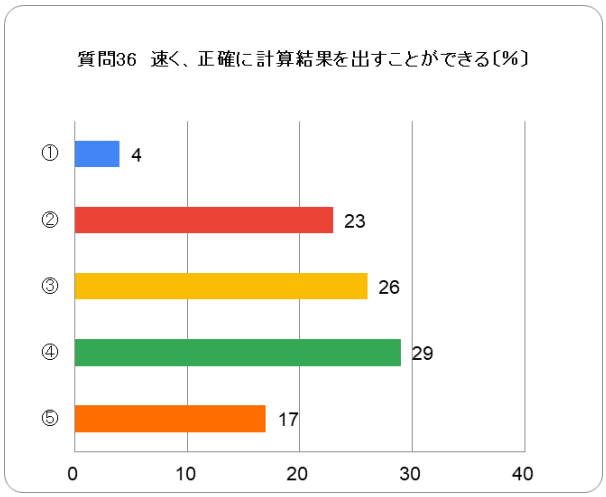


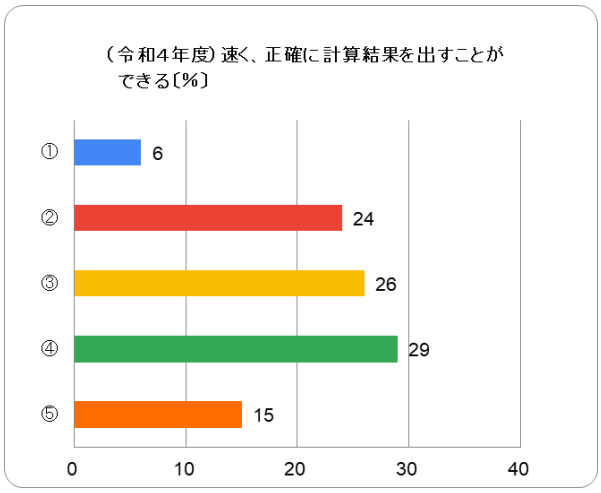
質問 35　機械を上手に操作し、工具を器用に扱うことができる



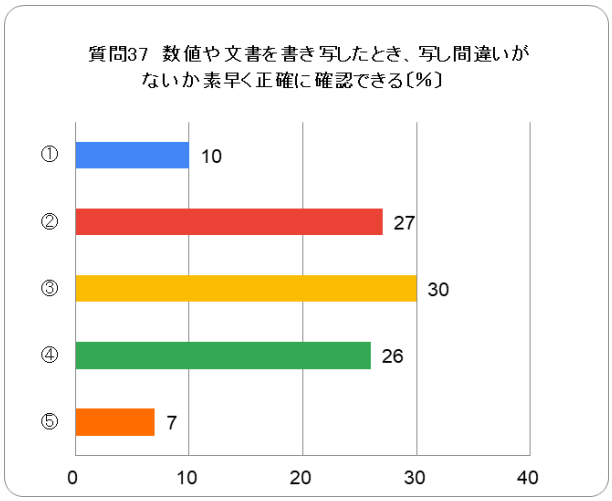


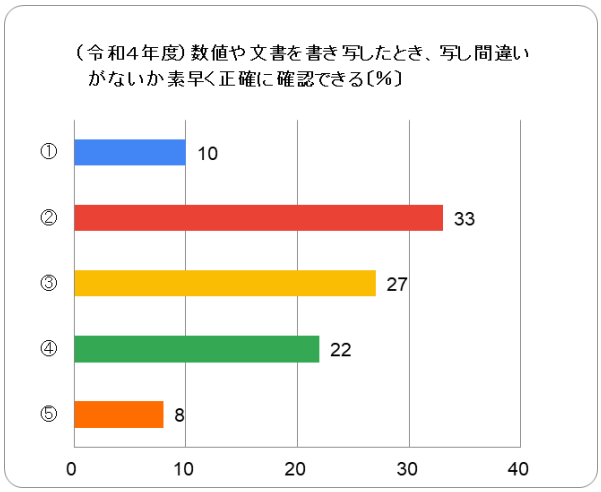
質問 36　速く、正確に計算結果を出すことができる





質問 37　数値や文書を書き写したとき、写し間違いがないか素早く正確に確認できる





7　まとめ

本校の研修部の「生活・学習アンケート」は、十年以上前から行われており、生徒の現状を把握する手段として始まったと思われる。しかし、百数十にも及ぶアンケート項目があったため、令和２年度に問いを精選して少なくし、令和４年度にはさらに、生徒の個人票が出せるようにして、「生活・学習・進路アンケート」として実施している。現在のところ、アンケートの集計結果と個人票は、生徒の指導に十分に有効に利用されているとは言い難いが、ＩＣＴ環境が整備されて実施や集計が比較的容易になり、次年度も実施して情報提供していきたいと考えている。

令和５年度の第２回（２学期末に実施）と令和４年度の第２回（２学期中間考査後に実施）の比較をしてみた。箇条書きにまとめると、次のようになると考える。

・横手城南高校に入学したことに、９割以上の生徒がほぼ満足している。

・高校卒業後は、国公立４年生大学に進学したがっている。

・得意な教科は、国語・英語・保健体育・芸術である。

・苦手な教科は、英語・数学である。
・平日の家庭学習時間は１～２時間である。
・授業でわからないことは、友人同士で教え合っている。教師に質問することはあまりない。
・朝食は、ほぼ毎日摂ってきている。保護者とのコミュニケーションはとれている。
・卒業後の進路を決めるにあたり、最も気がかりなことは、自分の学力不足と保護者の経済事情である。
・自分自身は規則、約束を守って生活している。一方、自分は意見を積極的に述べるほうで、行動力もあると思っている。
・ほかの人と協力して活動に取り組むことが好きである。
・美術、音楽、演劇、文芸に興味が強い。
・会計処理や事務処理は苦手である。
・商業的な仕事には、あまり興味がない。
・自然現象に対する興味はあまりない。農作物の栽培や機械工作による物作りにもあまり興味がない。
・文章の内容を正しく理解すること、また、自分の考えを言葉や文章で伝えることができる。
・数値計算力には、あまり自信がない。

これらの傾向は、令和２年度以降、ほとんど変化がなく、本校生徒の特徴であると言える。

令和６年度も、１学期と２学期の２回、生活・学習・進路アンケートの実施を計画している。生徒が大きく成長したことがわかるアンケート結果がでるような教育活動をしたいものである。

編　集　後　記

研究紀要「ひろば」第４９号の発行に際し、原稿をお寄せいただいた先生方にお礼申し上げます。教員免許更新制が廃止されたことに伴い、各自で研修に取り組むことが求められるようになり、戸惑いの中で始まった令和５年度でした。先生方が取り組むご自分の研修と日頃の学校での教育活動に、この研究紀要「ひろば」が参考になれば幸いと思います。

秋田県立横手城南高等学校　研修部

令和５年度　ひろば　Ｎｏ．４９

発行日　　令和　５年　３月２６日

発行者　　秋田県立横手城南高等学校
〒013-0016　横手市根岸町２－１４